くじゅう地区管理運営協議会

令和２年度　活動報告

阿蘇くじゅう国立公園　　長者原ビジターセンター

目次

Ⅰ．長者原ビジターセンター等運営管理業務
1．長者原ビジターセンター利用状況 ・・・・・・・・・・・・ 1
(1) 入館者数 ・・・・・・・・・・・・ 1
(2) ハイビジョン映像上映回数 ・・・・・・・・・・・・ 2
2．利用案内と展示・自然ふれあい事業 ・・・・・・・・・・・・ 3
(1) 利用案内と国際化 ・・・・・・・・・・・・ 3
(2) 館内展示および自然ふれあい事業 ・・・・・・・・・・・・ 4
① 常設展示 ・・・・・・・・・・・・ 4
② 企画展示 ・・・・・・・・・・・・ 8
③ 自然ふれあい事業 ・・・・・・・・・・・・ 9
④ 館内維持管理業務 ・・・・・・・・・・・・11
3．来館者アンケート結果 ・・・・・・・・・・・・12

Ⅱ．教育・普及啓発活動
1．普及啓発活動 ・・・・・・・・・・・・14
(1) 遭難事故防止活動 ・・・・・・・・・・・・14
(2) 広報活動 ・・・・・・・・・・・・15
2．環境教育活動 ・・・・・・・・・・・・22

Ⅲ．自然環境保全・調査活動
1．自然環境保全活動 ・・・・・・・・・・・・24
2．調査活動 ・・・・・・・・・・・・25

Ⅳ．登山道等管理活動
1．登山道保全活動 ・・・・・・・・・・・・26
2．長者原周辺の美化清掃活動 ・・・・・・・・・・・・26

Ⅴ．その他
1．くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度 ・・・・・・・・・・・・28
2．新型コロナウイルス感染症拡大防止措置 ・・・・・・・・・・・・29
3．令和２年７月豪雨への対応 ・・・・・・・・・・・・32
4．職員研修実績 ・・・・・・・・・・・・35
5．新聞掲載記事 ・・・・・・・・・・・・36
6．地域の概要 ・・・・・・・・・・・・37
7．運営体制 ・・・・・・・・・・・・38

Ⅰ．長者原ビジターセンター等運営管理業務

1．長者原ビジターセンター利用状況

(1) 入館者数

・令和２年度の来館者数は、90,423 人であった（前年度比：約 30％減）。

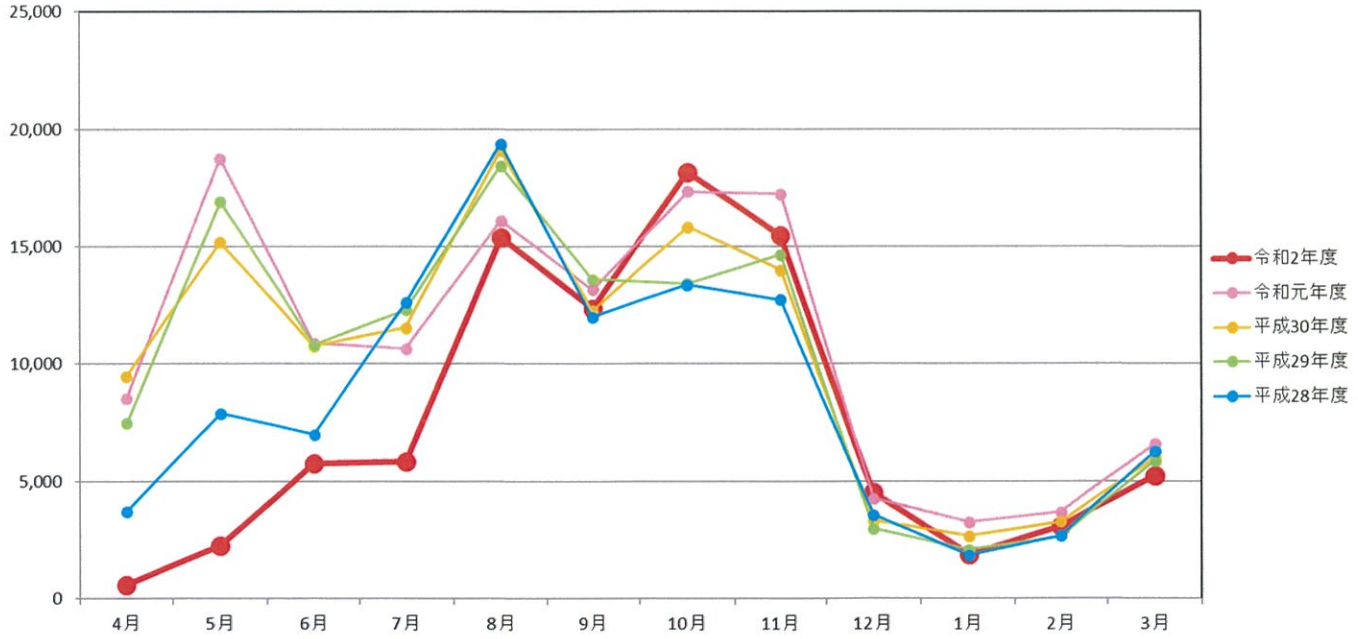
・入館者数は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大きく減少した。第１四半期は緊急事態宣言による閉館の影響もあり大きく減少し、７月も令和２年７月豪雨により客足は戻らなかったが、８月以降はほぼ前年度並みに回復した。10 月は紅葉の時期にも重なり 18,153 人と月としては過去最高の入館者となった。11 月、12 月は例年並みの入館者数となったが、１月から３月は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の影響から減少した。

館内利用の様子

来館者数一覧表（平成 28 年度～令和２年度）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
令和２年度	578	2,269	5,750	5,830	15,381	12,331	18,153	15,475	4,537	1,853	3,060	5,206	90,423
令和元年度	8,551	18,756	10,873	10,641	16,102	13,161	17,324	17,234	4,263	3,239	3,671	6,574	130,389
平成 30 年度	9,482	15,179	10,759	11,536	19,103	12,252	15,820	13,986	3,315	2,657	3,262	5,986	123,337
平成 29 年度	7,472	16,905	10,798	12,310	18,444	13,596	13,438	14,658	2,964	2,082	2,650	5,846	121,163
平成 28 年度	3,708	7,881	6,992	12,611	19,363	12,016	13,380	12,734	3,549	1,839	2,675	6,271	103,019

来館者数推移（平成 28 年度～令和２年度）



(2) ハイビジョン映像上映回数

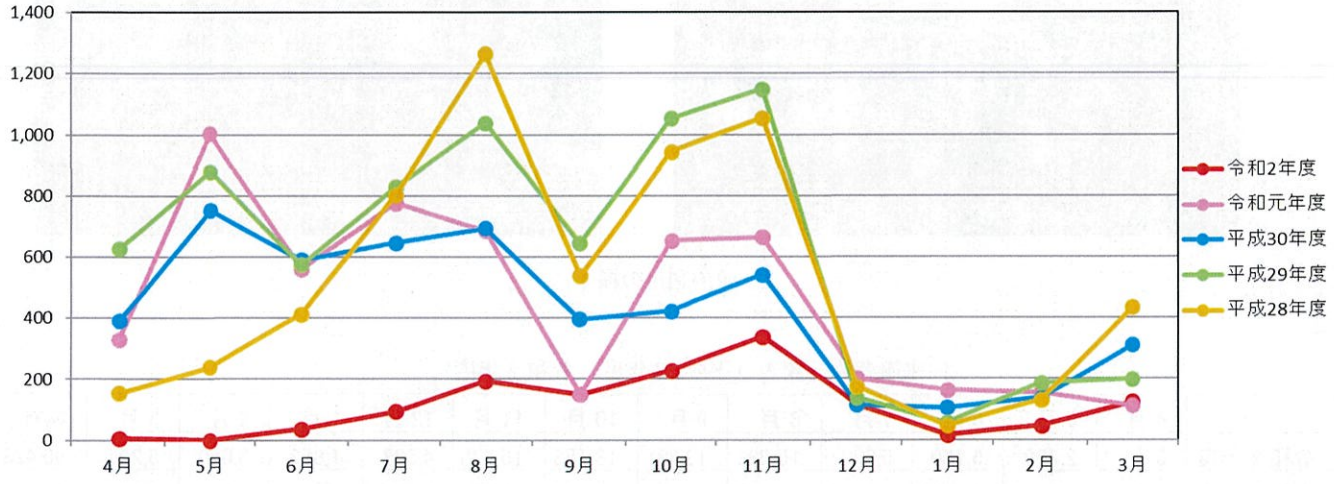
・令和２年度ハイビジョン映像上映回数は 397 回、延べ人数は 1,339 人で、人数は前年度に比べ 75％減となった。新型コロナウイルス感染症のよる閉館や観覧人数の制限の影響が大きかった。

・外国語字幕での上映は、新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの来館者数が激減したことにより大きく減少した。

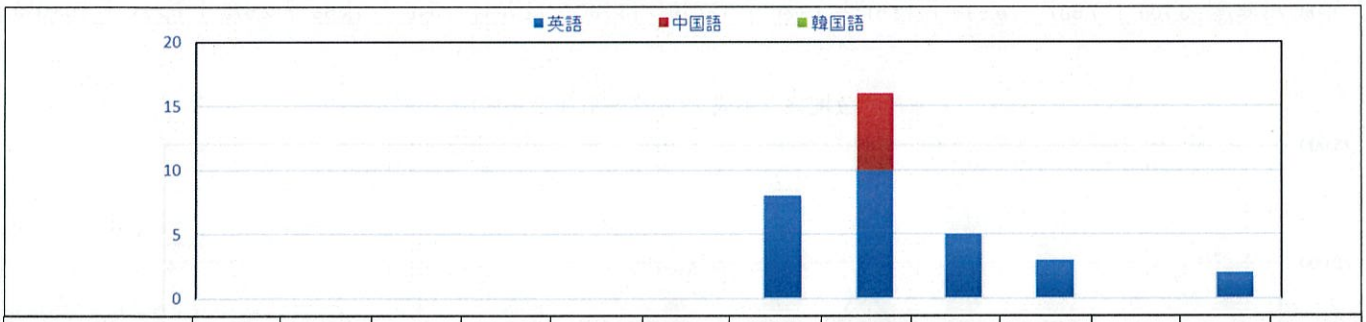
ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成 28 年度～令和２年度）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
令和２年度	6	0	37	93	192	149	227	337	114	15	45	124	1,339
令和元年度	329	1,004	561	775	685	149	652	664	200	162	154	111	5,446
平成 30 年度	390	752	590	647	694	397	422	542	115	105	138	311	5,103
平成 29 年度	626	880	575	829	1,039	645	1,053	1,149	137	56	187	199	7,375
平成 28 年度	155	240	414	802	1,264	537	944	1,054	175	46	132	433	6,196

ハイビジョン映像上映人数推移（平成 28 年度～令和２年度）



外国語上映人数内訳（令和２年度）



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
英語	0	0	0	0	0	0	8	10	5	3	0	2	28
中国語	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6
韓国語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	8	16	5	3	0	2	34

2．利用案内と展示・自然ふれあい事業

(1) 利用案内と国際化

・ビジターセンター受付カウンターおよび館内にて、国立公園の利用案内や自然情報等の情報提供をおこなった。

・英語での利用案内・解説ができる自然解説員を週３日以上配置し、利用案内の国際化に努めた。

・受付カウンターに英語での対応ができることのほか、筆談でも案内できることを表示した。

・利用者によく聞かれる雨ヶ池コースや諏峨守越コースの登山道入り口など、長者原周辺の案内地図を作成し、来館者がわかりやすいよう工夫した。

・外国語で案内できるようにするため、音声翻訳機「ポケトーク」を受付に配備し、英語のみでなく多言語対応できるよう案内の充実を図った。

・子どもでも楽しめるような館内アクティビティ（クイズラリー・スタンプラリー・足跡探し等）を設置し、英語版も提供した。

受付の様子

くじゅう連山自然情報

多言語対応の様子

スタンプラリー・クイズラリー案内

(2) 館内展示および自然ふれあい事業

① 常設展示

・下記の頻度で手作り展示を更新した。手作り展示や館内案内は英語併記をおこない、展示・案内の国際化に努めた。

展示内容		展示場所	更新頻度
お知らせコーナー	写真①	２階入口付近	随時
くじゅうの自然写真館	写真②	２階受付付近	月２回
登山のルールとマナー	写真③	２階受付付近	年７回
観光情報コーナー	写真④	２階受付付近	年４回
展望コーナー	写真⑤	２階展望室	随時
くじゅう連山自然情報	写真⑥	２階受付付近	随時
実物展示	写真⑦	２階受付付近	随時
ハンズオンコーナー	写真⑧	１階壁面付近	月１回
くじゅう植物図録	写真⑨	１階野焼きコーナー横	随時
タデ原フィールドガイド	写真⑩	１階入口付近	随時
キッズコーナー	写真⑪	１階階段横	随時
くじゅうの自然を支える活動	写真⑫	階段ボード	年４回
モニタリングサイト 1000 里地調査紹介	写真⑬	階段ボード	年２回
チームタデ原活動紹介	写真⑭	階段ボード	年５回

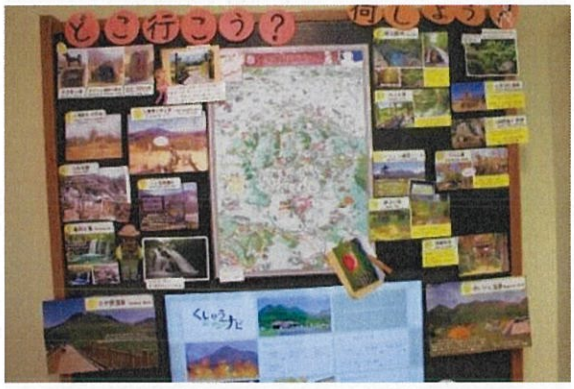
ビジターセンター2階

・２階はメインの入口となっており、来館者の出入りも多いため、自然に関する情報および登山道情報を提供したり、展望を利用した休憩スペースを設置したりしている。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナーや、周辺地域の観光情報等もわかりやすく紹介している。

① お知らせコーナー
センターからのお知らせ等を掲示した。

② くじゅうの自然写真館
くじゅう地域の旬な風景や生きものの写真を展示した。

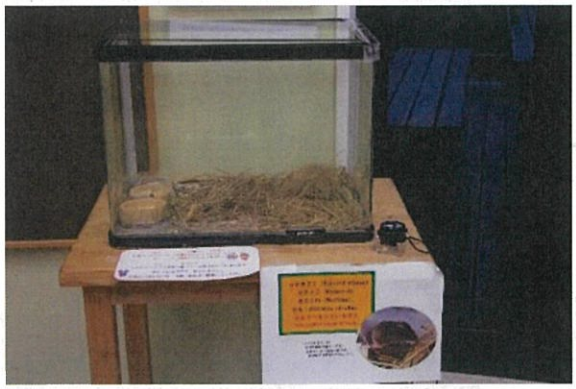
③ 登山のルールとマナー
登山の初心者向けに、季節ごとの登山の服装や、注意点などの説明をした。



④ 観光情報コーナー
国立公園周辺の見どころ等を、カケスマップ（周辺観光マップ）や写真などを使って紹介した。

⑤　展望コーナー
雄大な景色を眺めながらゆっくりできるコーナー。書籍や新聞を置いて、ソファーに座ってくつろいでもらえるようにした。

⑥　くじゅう連山自然情報
マンサクやミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報など問い合わせの多いものを館内に掲示した。



⑦-1 実物展示

⑦-2 実物展示

カヤネズミなどの実物を置き、来館者が季節を感じたり、小さな発見をしたりできるコーナーを設置した。特に生き物の実物展示は来館者が立ち止まって観察する様子がみられ、楽しんでいた。生き物以外にも鳥の巣や化石の展示も行った。

ビジターセンター1階

・1階は、滞在時間が十分にある来館者が多く、タデ原湿原木道やくじゅう連山登山道につながる出入口となっているため、タデ原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示した。

⑧　ハンズオンコーナー
実物に触ってみることが出来るハンズオンコーナー。くじゅうに生息する動物の剥製や鳥の巣、紅葉の情報、マンサクの花のつくりなどを紹介した。

⑨　くじゅうの植物図録
くじゅう地域のボランティア団体、「九重の自然を守る会」が作成した植物図録を季節ごとに入れ替えて展示した。

⑩　タデ原フィールドガイド
今見られる植物や動物などを、楽しみ方の幅を広げる職員手づくりの解説付きで紹介した。

⑪　キッズコーナー
自然関係の絵本やパズルなどを置き、子どもや親子連れがゆっくり遊べるコーナーにした。

階段

・2 階の入り口から入ってきた来館者が、タデ原湿原や館内トイレに向かう動線上に階段があり、多くの来館者が自然と展示を目にする場所であることから、くじゅうで行われている自然保護活動等を普及啓発する内容を展示した。

⑫　くじゅうの自然を支える活動
「飯田高原野焼き実行委員会」による野焼きや「パークボランティアの会」の活動、登山道整備活動など、くじゅう連山で行われた自然保護活動を紹介した。

⑬　モニタリングサイト 1000
「九重の自然を守る会」がタデ原で行っている植物モニタリング調査の様子を紹介した。

⑭　チームタデ原活動紹介
九重町の小中学生が参加する「チームタデ原」の活動を紹介した。

クイズラリー・スタンプラリー

・来館者が目的をもって展示を楽しめるように企画したアクティビティ。特に、子どもたちが喜んで参加していた。参加者数はクイズラリーが 305 人（前年度比 77％減）、スタンプラリーが 683 人（前年度比 58％減）であった。

・今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受付前にだけ用紙を用意して、参加する場合は手指の消毒などを呼び掛けて実施した。学校関係など団体での利用が少なった分、昨年に比べると参加人数は減少した。

・シートは日本語と英語の２種類を用意した。

・できたものを受付でチェックし、オリジナルシールをプレゼントした。

クイズラリー・スタンプラリー
シート配布の様子

クイズラリー・スタンプラリーの参加者の様子

展示の国際化対応

・手づくり展示については英語での解説を作成し、国際化への対応に努めた。

② 企画展示

・２階フロアや１階野焼き映像コーナー前で広い場所をとって比較的長期間実施する展示。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、予定した展示を行わなかったり内容を変更したりした。

展示内容	展示場所	展示期間
ミヤマキリシマ咲く峰へ	２階	中止（予定は４月～６月）
くじゅうを愛した殿様～入山公	２階	中止（予定は７月～９月）
緊急展示　令和２年７月豪雨のつめあと	１階	令和２年９月～３年２月
インスタフォトコンテスト（協力：九電みらい財団）	２階	令和２年９月～３年３月

令和２年７月豪雨のつめあと

実施期間：令和２年９月～令和３年２月

令和２年７月豪雨によるくじゅう連山の被害状況について紹介した企画展。
豪雨前と後のくじゅう連山の登山道の様子をパネル展示し、被害の大きさを紹介した。
写真パネルには、豪雨直後の様子の解説や災害後に登山をする際の注意点を掲示した。
来館者は立ち止まり展示パネルをじっくり眺めている様子がみられた。

インスタフォトコンテスト

山の日記念全国大会の関連イベントとして九電みらい財団が実施したフォトコンテストの入賞作品を、九電みらい財団の協力をいただき展示した。
くじゅうの風景や九州の山々の写真を展示しており、来館者は立ち止まって眺めていた

③ 自然ふれあい事業

タデ原の自然観察会

・九重の自然を守る会の会員がボランティアガイドをおこなう。参加費は無料。

・令和２年度の自然観察会開催回数は 32 回、参加者数は延べ 228 人であり、参加者は前年度に比べて約 72％の減少となった。

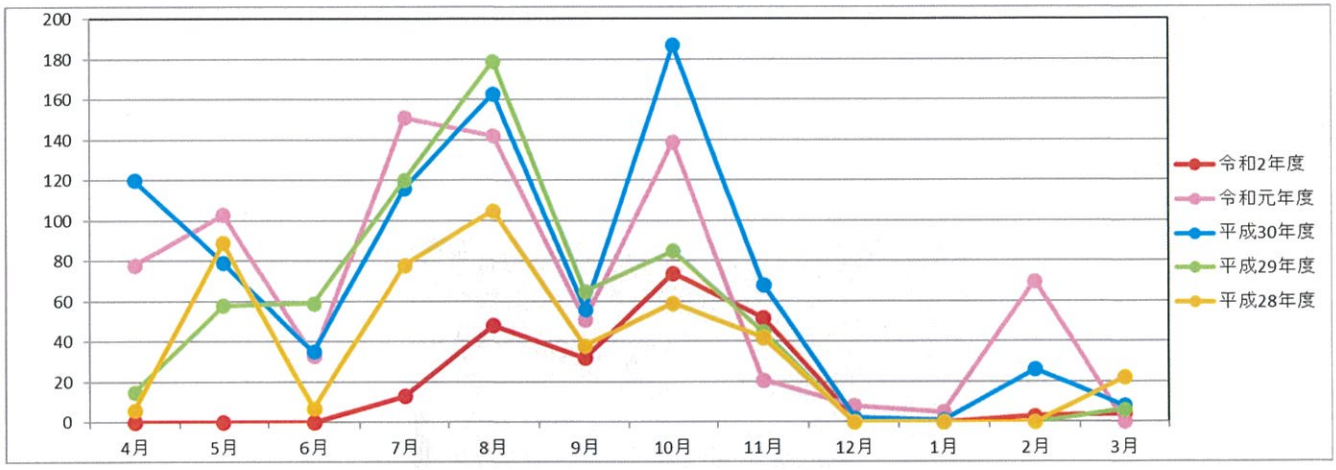
・４月～６月の間は新型コロナウイルス感染症拡大により中止を余儀なくされたが、７月の再開以降は利用が多くなり、参加者も満足された観察会になった。個人参加者のリピーター率も高くなっており、コロナ禍が終息すればこれまで通り多くの方が参加されると思われる。

自然観察会の様子

自然観察会参加者数（平成 28 年度～令和２年度）　※斜線の月は中止

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	累計
令和２年度				13	48	32	74	52	2	0	3	4	228
令和元年度	78	103	33	151	142	51	139	21	8	5	70		801
平成 30 年度	120	79	35	116	163	56	187	68	2	1	26	8	861
平成 29 年度	15	58	59	120	179	65	85	45	0	0	0	6	632
平成 28 年度	6	89	7	78	105	38	59	42	0	0	0	22	446

自然観察会参加者数推移（平成 28 年度～令和２年度）



国立公園レクチャー

・ビジターセンター職員が国立公園やタデ原湿原について解説を行うもの。参加人数等に応じて、15～30分程度のレクチャーを行った。

・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い屋外で間隔をとって実施することとしたが、学校による団体利用は大きく減少した。

・国立公園レクチャーの受け入れ回数は7回（全年度比12回減）、利用者延べ167人(前年度比83％減)。

国立公園レクチャーの様子

令和2年度 国立公園レクチャー一覧

開催月日	団体名	参加者(人)
8月29日	西庄内児童クラブ	25
9月20日	チーム2℃おおいた	27
10月20日	大分県商工女性部	14
10月26日	クラブツーリズム	38
11月11日	立命館アジア太平洋大学学生	35
12月2日	飯田小学校5年生	11
12月17日	飯田小学校3，4年生	17
合　計		167

視察研修対応

・行政機関をはじめとする関係者の視察等の受け入れを随時行い、職員が館内展示や阿蘇くじゅう国立公園、タデ原の自然環境などについて解説をおこなった。

・新型コロナウイルス感染症の影響で関係機関からの視察は少なかった。

・令和2年度の受け入れ回数は2回、利用者数は延べ14名と、前年度（13回、88名）に比べて大きく減少した。

視察の際に展示を見る様子

令和２年度視察研修受け入れ事業一覧

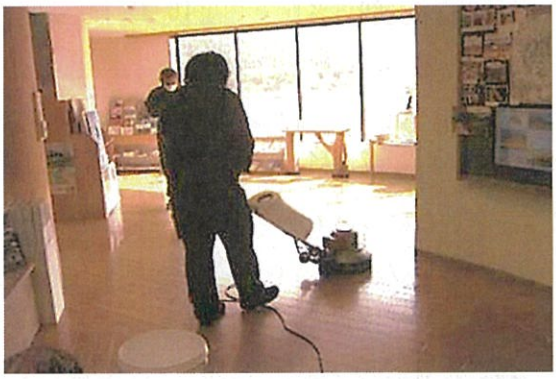
開催月日	団体名	参加者(人)
11 月 12 日	九州森林管理局	8
11 月 17 日	九重町・JTB	6
合　計		14

④ 館内維持管理業務

・ビジターセンター館内は、朝または閉館後にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃、展示のタッチパネルやエレベーターのボタンなどのアルコール消毒を毎日実施した。

・年１回の清掃業者による特別清掃（ワックスがけ等）を、２月に実施した。

日常清掃の様子



特別清掃の様子

3．来館者アンケート結果

2020年10月26日～11月4日に来館者アンケートを実施し、期間入館者数の約1.3%にあたる110名から回答を得た。

(1) 回答者について

福岡県	大分県	熊本県	九州中四国	関西	中部以東
36.4%	28.2%	6.4%	11.8%	3.6%	13.6%

20歳未満	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳以上
6.4%	13.6%	28.2%	51.8%

(2) 長者原を訪れた目的【複数回答】

タデ原の散策	登山	ビジターセンター	偶然通りがかった	ツアーの一部	その他
69.1%	16.4%	10.0%	10.0%	1.8%	2.7%

(3) 来館回数

はじめて	2～3回目	4～5回目	6回以上
42.6%	21.3%	13.9%	22.2%

(4) 展示内容について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
70.9%	24.5%	4.5%	0%	0%

(5) 職員の対応について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
67.0%	17.0%	15.1%	0.9%	0%

(6) 館内の設備について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
69.1%	22.7%	8.2%	0%	0%

(7) 知りたい情報について【複数回答】(上位のもののみ)

花と植物	動物	登山情報	歴史や文化	自然を守る活動	温泉情報
76.4%	39.1%	47.3%	30.0%	30.0%	23.6%

(8) よかった展示について【複数回答】(上位のもののみ)

2F 自然写真館	2F ｲﾝｽﾀﾌｫﾄｺﾝﾃｽﾄ	2F 展望室	1F タデ原ガイド	2F 登山情報	1F 紅葉のしくみ
55.3%	51.5%	39.8%	28.2%	27.2%	23.3%
2F ﾊｲﾋﾞｼﾞｮﾝｼｱﾀｰ	2F 周辺観光情報	1F 野焼き映像	1F 航空写真	1F 豪雨のつめあと	階段 くじゅうを支える活動
23.3%	23.3%	23.3%	23.3%	17.5%	17.5%

(9) 回答者の主なコメント（抽象的なもの、重複した内容のものは省略）

展示やお土産が充実している。長者原には何度も来ているが知らなかった / ハイビジョンシアターはよかった / カヤネズミに会いに来た。可愛さ満点 / コンパクトにまとめていて、知りたい情報を知ることができ感謝している / 豪雨の被害について、立ち入ることができないのでどういう状況になったのか写真で見ることができてよかった / 毎年主人の登山で私はタデ原周辺散歩とビジターセンター利用させてもらっている。毎回展示品を見ているが努力がうかがえる / 四季折々の楽しい展示をこれからもお願いします / 美しいくじゅうの自然を見せていただき、野焼きなど手をかけて美しい自然が守られていることを知った。美しい秋の景色、大船山素晴らしかった / 野鳥観察情報がほしい / 今回観察会に参加し、紅葉の美しさに感動した。最高の眺めだった / 初めてきたがキレイな施設で入りやすくよかった / 前回寒い時期に来館しましたが、暖かくしてあり大変ありがたかった / とてもきれいで見やす

く楽しかったです。清潔感があるのがとても良かったです　/　授乳室があると助かります　/　おおよそ満足だが、簡単な喫茶コーナー的なものがあれば良いかも　/　お土産を増やしてほしい　/　ストレス発散できた。ありがとうございました。また来ます　/　何度か訪れたがいつも楽しい　/　登山ルートの整備いつもありがとうございます

(10)　分析

・来館者について

例年の10月調査と同様に、福岡・大分・60代以上が多く、遠方・若年層が少なかった。来館目的は「タデ原散策」が圧倒的に多く、「登山」の4.3倍に達した。登山スタイルの人も目についたので、登山者が減ったというよりもタデ原散策の人が増えた印象がある。年齢や地域構成には新型コロナやGOTOキャンペーンの影響は感じられないが、ツアー客が少なく、個人や少人数でのタデ原散策目的が多い点に、新型コロナの影響がうかがえた。

熊本県からの来館者が例年少ないので、阿蘇地区のビジターセンターと連携した広報活動の必要性があると思われる。

・展示内容について

平均スコアは例年並みで、4回以上来館のリピーターからの評価が高いのも例年同様である。館内の展示の中では「くじゅうの自然写真館」「インスタフォトコンテスト」の順で高評価であり、他の上位項目も、「展望室」「登山情報地図」などこれまでとほぼ同様であった。タデ原散策を目的とする来館者が多いことから、1F「タデ原フィールドガイド」の評価も高かった。

紅葉の時期には紅葉の展示、ミヤマキリシマの時期にはミヤマキリシマの展示の評価が高くなる傾向があるので、今後も時期を踏まえた展示の作成や入れ替えをおこなっていきたい。

「キッズコーナー」「あしあとさがし」は、全体的な評価としては高くないものの、若い層からは比較的高い評価を受けており、今後も維持管理が必要である。

・職員の対応や設備について

職員の対応については、展示や設備に比べるとやや評価が低かった。とりたてて悪いわけではないだろうが、展示と同様に印象に残る応対や案内を心掛けたい。

設備については、例年とほぼ同じ良好な評価であると言える。しかし、何度も訪れている来館4回以上の層に注目すると、他の層に比べて展示の評価は高くなるが、職員対応と設備については差が見られなかった。

・知りたい情報について

「花と植物について」のニーズが圧倒的に高く、次に「登山情報、動物、歴史や文化」、さらに「守る活動、温泉、火山」と続く傾向は、前回までの調査と変わらない。館内の展示や情報誌も、これらをバランスよく取り込んで作成していくとともに、職員間の平素の情報共有と、職員個人の知見の蓄積を今後も心掛けていきたい。温泉についての展示はこれまであまりないので、展示やくじゅうだよりなどで企画するのもいいかもしれない。

Ⅱ．教育・普及啓発活動

1．普及啓発活動

(1) 遭難事故防止・登山マナー向上活動

牧ノ戸峠 登山ミニレクチャー

開催日時：令和2年 10月25日（日）7：30～9：30

場　　所：牧ノ戸峠登山口

・公園利用者への適切な利用促進の一環として、くじゅう連山最大の登山口として利用されている牧ノ戸峠登山口において、「登山ミニレクチャー」を実施し、登山者に対する公園利用マナーの普及啓発を行った。

・早朝、登山者に向けて登山届のWeb上での提出、服装点検、持ち物確認、登山道の歩き方（植生保護のため）、ゴミの持ち帰り、下山時刻の確認、山のトイレの利用方法など、向上すべきルールやマナーについて拡声器を用いて呼びかけた。

・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でミヤマキリシマ開花時期は中止し、紅葉繁忙期に実施した。紅葉の時期のレクチャーでは多く人が朝早くから登山口に集まっており、呼びかけに応じてくれた。

呼びかけの様子

登山者の様子

(2) 広報活動

① くじゅうファンクラブ（くじゅう地区管理運営協議会）ホームページ

令和２年度「最新情報」更新回数 36 回

・平成 28 年度に立ち上げたホームページ上で、くじゅうについての様々な情報提供をおこなった。

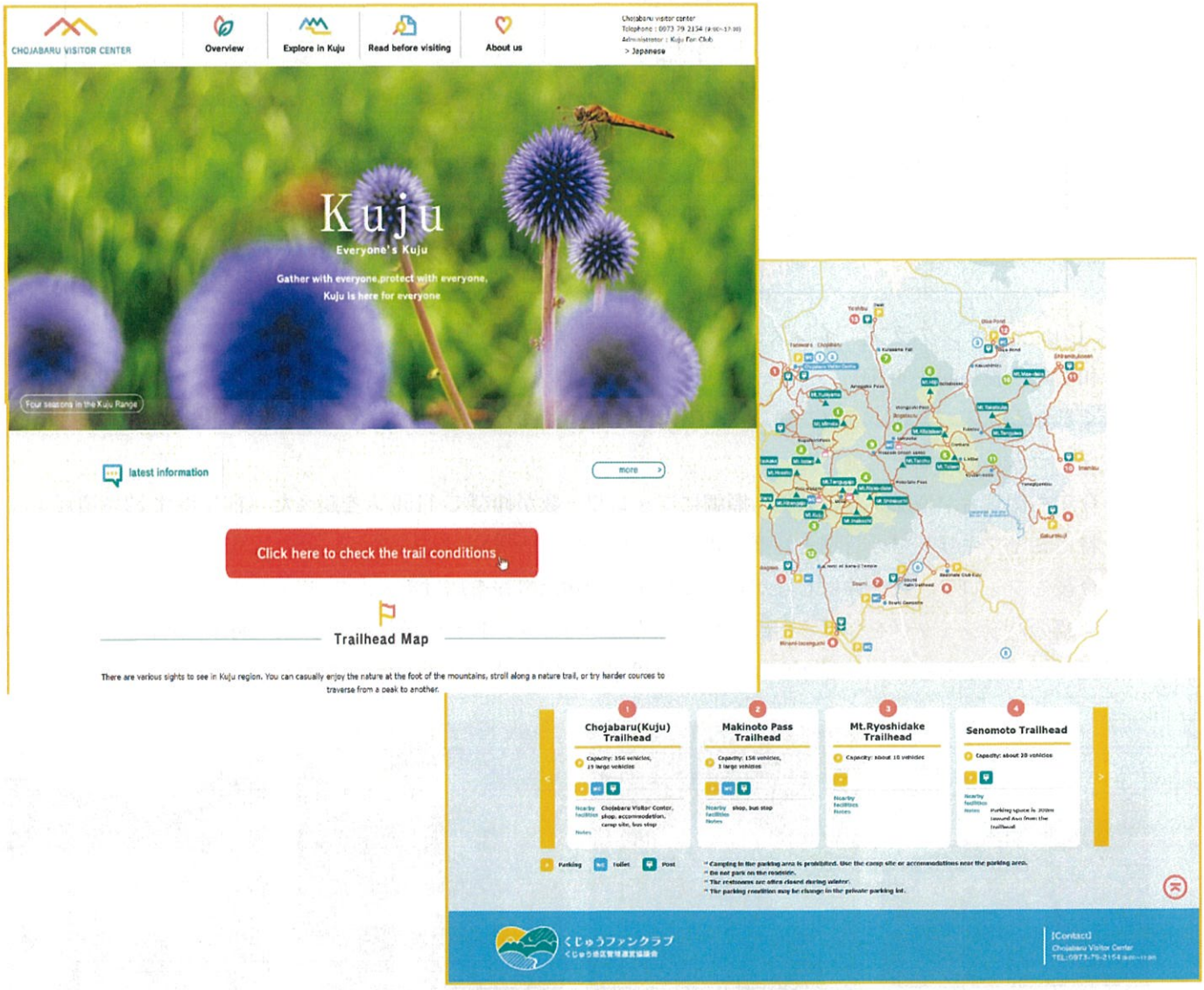
・くじゅうファンクラブホームページ内に、当協議会が運営する長者原ビジターセンターの紹介ページやくじゅうの歩き方をダウンロードできるサイトなどを設け、くじゅう連山の魅力や登山者に有益な情報を発信した。

・「最新情報」のコーナーでは、長者原ビジターセンターからのお知らせのほか、「令和２年７月豪雨によるくじゅう連山の登山道の状況」というバナーを作成して、最新の登山道状況の提供に努めた。

・協議会の事業として実施した登山道整備活動等のお知らせなど、くじゅうを守る活動等についても紹介した。

登山道情報のバナー（地図は 33 ページ参照）

・環境省補助事業「令和２年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業費」を利用して、くじゅうファンクラブホームページ内の情報を英語化し、外国の方もくじゅう連山の情報が得られる内容にリニューアルした。



② くじゅうファンクラブ　フェイスブック

令和２年度投稿回数：95 回

・くじゅう地区の最新の情報を幅広く提供するとともに、くじゅうに関心と持ってもらうことを目的に、フェイスブックに情報を掲載した。

・フォロワーの人数は、年度当初の 4,764 人から令和３年３月末には 5,823 人へ 18％増加した。各地のビジターセンターのフェイスブックページでは最大のフォロワー数となっている。

・投稿がタイムラインやシェア・検索などを通じて受け手に表示された数を示す「リーチ数」は、平均すると１回の投稿あたり 5,380 回であり、合計でのべ 50 万人以上に情報が届けられたことになる。リーチ数の最大は 16,941 回（7 月 12 日、豪雨と被害についての情報）で、他にミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報、積雪情報等については特に多くの人が閲覧やシェアをおこなっている。今年度は新型コロナ関連情報や立中山の山火事情報などについても閲覧が多かった。

・英語のコメントやハッシュタグを併記することで、外国人からの反応も継続的にみられている。

③ くじゅうファンクラブ　インスタグラム

令和２年度投稿回数 46 回

・くじゅう地区の美しい写真を通じて、国内外で幅広くくじゅう地区に関心を持ってもらうために、インスタグラムへの投稿を実施した。

・今年も閲覧者が増加すると共に、順調にフォロワー数が伸びて 1150 人を超えた（前年度比 52％増）。

・特にミヤマキリシマの時期と紅葉の時期は、「いいね！」が多くなった。

・今後もフォロワー数を伸ばしながら、くじゅうの旬な情報を届けたい。

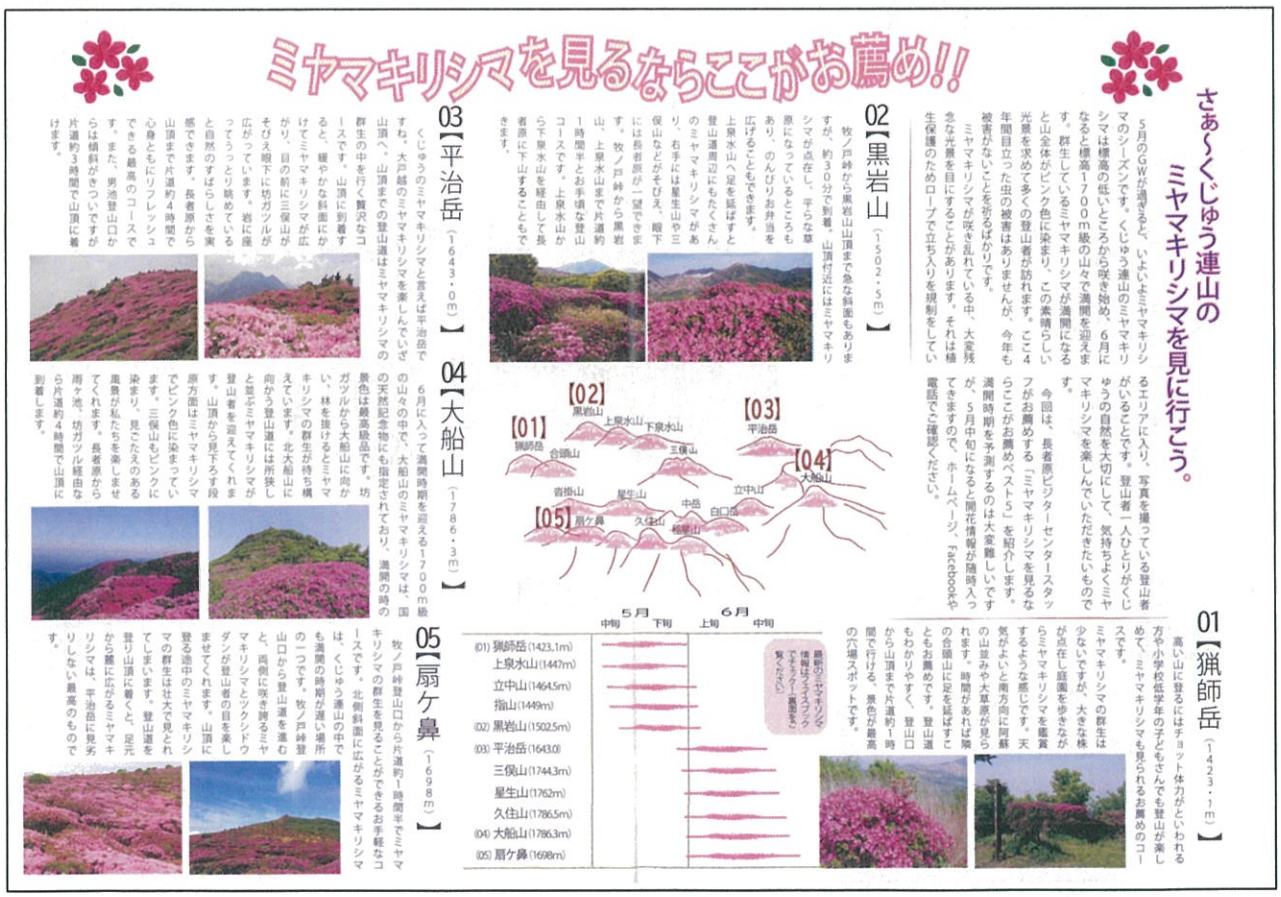
・英語のハッシュタグをつけるだけでなく、英語でのコメントを併記したことで、外国人利用者からもいいね！の反応があった。くじゅうについての認知度を国内外に高めるために役立ったと考えられる。

④「くじゅうだより」の発行

・くじゅうの自然をより深く理解してもらうことを目的に、年４回発行した。ビジターセンター内で配布するほか、くじゅう地区管理運営協議会の各会員施設でも配布した。

・多くの散策道や登山道に興味を持ってもらえるよう、コース紹介を積極的に行った。

・コース紹介の他に季節ごとのお勧めスポットや植物の紹介もおこなった。



8月11日は、国民の祝日「山の日」です（2020年のみ8月10日）。この祝日は、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日として制定されました。2020年8月に大分県で開催予定だった「第5回山の日記念全国大会おおいた」は、2021年に延期になりましたが、今回は「山の日」にちなんで、登山がどのように始まったか、くじゅう連山の山岳信仰の歴史について特集します。

【登山のはじまり】

山は水がはじまるところであることから、古くから水分神（みくまりしん）がいると考えられ、各地で水源信仰が発達してきました。

くじゅうでは、中岳直下の御池（みいけ）が隣接する空池より標高的に高い場所に位置することがないことから、水源信仰の対象となりました。

もともと火山を始めとする自然は恐ろしく、人が命を落とすような大きな力をもったものと考えられていましたが、仏教が伝来することで、あらゆる神は仏の慈悲によって鎮められるようになったといいます。大分県は国東半島を中心に、山の岩に仏の像を掘りこんだ摩崖仏が日本一存在することで知られていますが、山の神が穏やかな仏の表情をして現れた姿が各所でみてとれます（神仏習合）。

最澄や空海などが、1300年以降に密教の考え方（即身成仏：いま生きているこの身のまま、仏になることができる）を日本にもたらすとともに、山林を歩きまわることで、自ら悟りを開こうとする行為が盛んにおこなわれるようになり、全国各地で山岳信仰が栄えました。現代のような形で山を歩くという行為の始まりは、山岳信仰が始まりだったといえるかもしれませんね。

▲中岳直下の御池

▲猪鹿狼寺本堂跡

▲摩崖仏の例（熊野摩崖仏）

【くじゅう連山の山岳信仰】

くじゅう連山でも中岳直下の御池を中心に、山岳信仰が栄えました。文献では特に法華院（ほっけいん）、猪鹿狼寺（いからじ）、金山坊（きんざんぼう）の3つの寺院についての記録が残っています。

文政六年（1823）に記録された別冊旧記録では、「久住山は、九州第一の高山霊水である」ことや、くじゅう連山南麓に位置する猪鹿狼寺について、「伝教大師が延暦二三年（785）に、渡唐帰朝の際に持ち渡した十一面観世音を安置し、大和山慈尊院と号した」こと、「山を上宮と崇め、下宮の本宮を嶽宮と号した」こと、「正年中（1573～1593）の兵乱により、坊中は残らず退転してしまい、次第に衰微した」ことなどが記載されています。当時山中に十六院ものお寺が栄えていたとは驚きですね。

【猪鹿狼寺の寺号】

猪鹿狼寺は、くじゅう連山の南側に位置し、本堂跡は南登山道沿いに残っています。猪鹿狼寺の寺号は動物の名前を連ねたユニークな名前ですが、別冊旧録にはその由来について記載があります。文治二年（1186）源頼朝の富士の牧狩り（草原に火を放ち、獲物を集めて弓などで射る軍事演習）に先立ち、蒲原高が阿蘇大宮司家が古来から執り行ってきた下野の狩りの訪問の際に、殺生禁断の地であった久住山において牧狩りを行ったところ、お供びただしい獲物がとれたことから、畜類供養としての頼朝公の寄付に恩徳を感じて、猪鹿狼寺と改名したとあります。草原での牧狩りと山岳信仰の関係が見てとれる興味深い史料です。

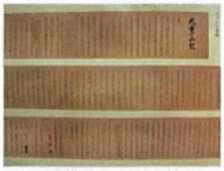
▲別冊旧記録（文政6年（1823））

▶下野狩図（貞享元年（1684））

【法華院と九重山記】

法華院は、くじゅう連山の山中、坊ガツルに位置し、現在は法華院温泉山荘として営業を続けています。開基は文明二年（1470）といわれています。

この法華院には「九重山記」という、明和七年（1770）法華院院主に招かれた芳梅聞が、法華院に登詣したおりの見聞をまとめて記した古文書が伝わっています（全長約[illegible]mの巻物）。当時の法華院周辺の様子や、寛文年間に院主勝光院豪尊が峰入りしていることなどが記載されています。


▲九重山記（明和7年（1770））

◀硫黄山の硫黄

正保二年（1645）肥後藩領から見た、くじゅう地域を描いた絵図の写し（長者原ビジターセンター展示中）

【金山坊の登場と硫黄山を巡る争い】

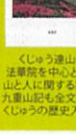
享保六年（1721）の玖珠郡田野村村鑑帳では、硫黄山の燃えているところに、九重山大明神を崇めており、この山を九重山法花院（法華院）花水寺といい、守山伏の金山坊（麓の村の中にいる）と記録されています。寛永九年（1632）、火薬の原料となる硫黄の産出をめぐって、天領（金山坊・岡藩（法華院）・肥後藩（猪鹿狼寺）で硫黄山を三分割する出来事が発生しており、寺院が山岳信仰を保持しつつも、山上における硫黄の見張り役を行っていたことがわかります。

▲法華院温泉山荘

【明治時代を境に】

明治時代以降、神仏分離が行われ、くじゅうだけでなく全国の山々で山岳信仰の拠点であった多くの寺院がなくなってしまいました。くじゅう連山の各所では、現在も山岳信仰の名残である祠の跡や、石碑、仏像などが点在していますが、かつての神聖なくじゅうの山の歴史に思いをはせてみると、また違う感覚で山を楽しめることと思います。

もっと知りたいあなたに



くじゅう連山の法華院を中心とした山と人に関する記録。九重山記も全文掲載。くじゅうの歴史入門編

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE FREE!

くじゅうを歩こう！

紅葉登山特集
黒岩山～上泉水山～下泉水山 編

2020 秋号

自然豊かな黒岩山周辺に広がるススキ草原

くじゅうファンクラブ活動情報

＊平成28年6月11日から、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。

教育・普及啓発　自然環境保全・調査　登山道等維持管理

チームタデ原　今年度初めての活動

九重町の小中学生からなる「チームタデ原」。例年5月に最初の活動をしていますが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動のスタートが遅れ、8月にようやく第一回目を行うことができました。8月の活動では今年度の活動計画とタデ原の散策をしました。年間活動の話合いでは、タデ原の動物についてもっと詳しく知りたいと言った意見やキッズガイドをしたいなど様々な意見が出されました。

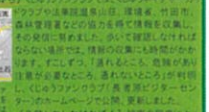
タデ原の散策では、水の温度を調べたり、日陰はかけない場所からタデ原湿原を観察しました。7月にあった豪雨により、川の流れが変わっていたり、大きな石が流れ込んだことで、湿原の景色が変わっていました。7月豪雨の際の川がとても激しかったことがよくわかりました。久しぶりの活動でしたが、タデ原の新しい発見もできた充実した日になりました。

タデ原のオオハンゴンソウ駆除活動

8月23日(日)、29日(土)、30日(日)に、九重の自然を守る会がタデ原のオオハンゴンソウの駆除活動を行いました。オオハンゴンソウとは北米由来のキク科の植物で、繁殖力が強いことから国の特定外来生物に指定されています。根が2g残るだけで再生するといわれ、駆除のためには抜根作業が必要になります。鎌はやスコップを利用して抜根作業が行われました。10年近くにわたる九重の自然を守る会による粘り強い駆除活動により、近年では一面オオハンゴンソウで埋め尽くされていたエリアからオオハンゴンソウの姿がなくなりつつあります。活動に参加された皆さま、お疲れさまでした！くじゅうファンクラブでは長きまからいただいたご支援を、外来種駆除活動等の道具の購入等に充てさせていただいております。

令和２年７月豪雨の影響と対策

【１発生当初】7月3日から15日まで降り続いた雨は、くじゅう連山周辺にも大きな被害をもたらしました。人的な被害こそなかったものの、登山道、周辺の牧野道、駐車場などが石流や土砂崩れに飲み込まれ、被害の全貌はかんたんにはつかめないほどです。また、大分県自然保護官室からは、入山の一時的な自粛が呼びかけられました。



【２被害をそすめながら】くじゅうファンクラブでは、くじゅうライチャーガイドクラブの法華院温泉山荘、環境省、竹田市、森林管理署などの協力を得て情報を収集し、その発信に努めました。少しで復活しなければならない場所では、情報の収集にも時間がかかります。そこにすら、「入れるところ、危険がありそうなところ、入れないところ」が判明しました。くじゅうファンクラブ「長者原ビジターセンター」のホームページに公開、更新しました。

▲登山前にくじゅうファンクラブのホームページを確認してください。情報は随時更新しています。

【３何とかしなければ！】被害の程度によっては、目印やロープ柵の設置・障害物の除去といった作業で通行が可能になります。関係者の協議で、登山道の管理者の有無や管理者が誰かを問わず、地域の人の力を借りて現状復旧に取り組むことが一番大事。一方、人力で動かせない土石や、鉄筋・鋼の洗失などの被害量所は、本格的な復旧工事が必要で、まだ時間がかかりそうです。

【４復旧に向けて】目印やロープ柵の設置は徐々に進められています。多くの人が歩く路線では、石もどけられていたりふつう歩きやすくなりました。現状復旧は拡張の時期までにもう少し進みそうです。一方で、まだ見通しがたたない路線もあり、復復旧箇所であっても、石が多くあるにかったり、再び大雨が降れば被害が心配されるなど、全面的に安心できる状況ではありません。

【５支援をしたいのですが】災害直後から、「何かできることはないか」という嬉しい声掛けをたくさんいただきました。我々関係者にできる支援として、まず、まずは、それぞれ安全に通っていただき、その間に浮石のようでもどけていただくことです。明らかに危険なルートを無理に通行したり目印をつけたりするのは避けてください。「法華院をはじめ周辺の宿泊・観光施設を利用することも、関係者にとって大きなプラスになります。下記の「くじゅうファンクラブ賛助会費」は、災害復旧事業の作業費・資材購入費等に充てられています。実際に作業をしたいなら、募集している団体を検索してみてください。

阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

＜参加費無料／要予約（団体向け）＞

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャー＆1分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

タデ原の自然観察会

＜参加費無料／事前申込不要（個人の場合）＞

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜・祝日10:00～12:00に開催しています。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。団体での お申し込みの場合は事前にご相談ください。

【注】新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行事を中止することがあります。開催状況につきましては、随時お問い合わせください。また当日の検温へのご協力とマスクの着用をお願いいたします。

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員（個人一口3,000円／年、団体一口10,000円／年）や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ（左端にQRコード記載）をご覧ください。

くじゅうだより2020秋号

発行元：くじゅうファンクラブ
（くじゅう地区管理運営協議会）

〒879-4911 大分県竹田市九重町大字田野255-39
長者原ビジターセンター

TEL & FAX 0973-79-2154

くじゅうファンクラブホームページ：
http://kujufanclub.com/

★くじゅうの最新の自然情報をはFaceBookで！
https://ja-jp.facebook.com/chouljiberoshiten/

★活動報告やくじゅうの基本情報をはくじゅうファンクラブホームページで！
http://kujufanclub.com/

リレーボ　職員からのひとこと

コロナ自粛中、くじゅうは不要不急なのか、ということを考えました。不要不急の反対は「必要要急」でしょうか、「不急か至急か」については、今すぐじゃないと、という人は少ないだろうな、来年でもいいかもな、とも思います。「不要／必要」はどうか。地域の人はもちろん、毎月くじゅうに通ってる人もいたのを見ていると、とても「不要」とは言えない感じがします。くじゅうは不要不急じゃなくて「必要不急」なのかな。これからも必要にされるくじゅうを守りたいです。（大島）

秋風を感じながらくじゅうの紅葉を楽しもう！

黒岩山（くろいわさん）～上泉水山（かみせんすいさん）～下泉水山（しもせんすいさん）

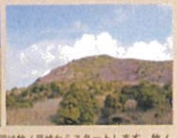
1502m	1447m	1296m

くじゅう連山でミヤマキリシマの時期と同じくらい人気の紅葉シーズンは、毎年多くの登山者で賑わっています。1,700m級の山々が赤や黄色に染まった景色はとてもきれいです。

紅葉の始まりは例年10月中旬ごろ。標高が高い山から色づき始めます。寒暖の差が大きいくじゅうは11月上旬まで楽しむことができます。今回はくじゅう連山の紅葉スポットとして『黒岩山～上泉水山～下泉水山』のコースのご紹介です。

黒岩山から下泉水山まで目安の時間としては、おおよそ3時間ほどです。概念となると少し長く感じるかもしれませんが、見どころとしてはススキ草原と紅葉。くじゅう連山やタデ原湿原の景色、阿蘇方面の景色など阿蘇くじゅう国立公園の自然景観を盛り沢山に楽しむことができます。登る方の経験や体力に合わせて、ゆっくり歩きながら秋の登山を満喫してみてはいかがでしょうか。

01 牧ノ戸峠登山口 1330m



長者原から行くこともできますが、今回は牧ノ戸峠からスタートします。牧ノ戸峠駐車場は紅葉シーズンの土日祝日は満車になることが多い場所です。しかし平日は余裕もって登山ができると思います。週末に登山を計画する場合は、長者原に車を停めれば周辺の駐車場合わせて450台収容できるので、週末でもある程度は駐車が可能です。長者原から牧ノ戸峠まで車で約10分、九重町が運行している路線バスを利用して向かいます。長者原に車を停めていれば登山終了後に、牧ノ戸峠に車を取りに行く必要はありません。牧ノ戸峠に着いたらトイレもありますので、事前に済ませてから出発しましょう。黒岩山の入口には駐車場の向かい側になります。最初にコンクリートの道を進むと目の前に黒岩山がみえます。ススキが風に揺られて輝いている時期になります。秋の気配を感じながら歩いて行きましょう。

02 振り返ると絶景が広がる

歩き始めと最初に目にする看板です。ここを一直線で黒岩山頂へ行きましょう。

天気が良ければ阿蘇山もバッチリ見えます。

牧ノ戸峠の売店もやきとりもあります。

夏から中盤ッ頃なら、くじゅう連山もみえますよ。

登山道を進むと段々と急な登りになっていきます。ここは立ち止まりながら周囲の景色や植物をゆっくり眺めて歩くと楽しいかもしれません。晴れていれば阿蘇山が見えます。登り終わると開けた草原が目の前に現れます。牧ノ戸峠から30分ほどで黒岩山の山頂に着きます。

03 黒岩山の山頂からみる景色

開けた草原の道を山頂方面へ進むと山頂標識がみえてきます。周辺は岩場に囲まれており、足場が悪いところもあるので注意しましょう。岩の間から紅葉した木々が目の前に広がる景色は写真に収めたい美しい風景だと思います。また黒岩山山頂からは清川峠や一目山などの山々が一望でき、八丁原発電所もみおろすことができます。上泉水山まで行かずに、ここでゆっくりするだけでもお勧めです。

04 上泉水山からみるくじゅう連山

三俣山もいつもとは違う角度からみることができます。

タデ原も全体を見渡すことができ、秋の下湿原の色さえもわかります。

黒岩山から上泉水方面へは笹原を行きながら所々緩やかな登り下りが続きます。右手には星生山や硫煙をあげている硫黄山をはじめ、くじゅう連山を眺めながら歩きます。さらに進むと三俣山やタデ原、遠方には平治岳もみえるので、まさにくじゅうの景色を一望できる場所です。秋の紅葉以外の時期に登山をするとまた違った景色が広がっていると思います。くじゅう連山の雄大な山々の景色を楽しみながら、お昼ご飯や休憩をしてはいかがですか？

05 下泉水山の色鮮やかな紅葉

下泉水の山頂周辺の紅葉は谷の斜面から色とりどりに染まった木々が目の前に広がりとても きれいです。

アセビのトンネル

ススキが広がる草原

上泉水山から下泉水山方面へ向かいましょう。下泉水へは稜線を歩く途中急な下りがあります。ここは足元に注意しながら慎重に降りていきましょう。急な下りを終えしばらく進み、アセビの林の中を通ると小さな「下泉水山」への看板があり、左へ入ります。山頂周辺は岩場になっているので、けがをしないように登りましょう。山頂に咲くと赤や黄色に染まった木々が広がっています。下泉水山の紅葉を楽しんだら最後は長者原まであと少し歩きます。林の中を下っていくと開けた草原地帯が みえてきます。この場所は毎年野焼きを行い草原を維持しています。これまでくじゅう連山の山々がみえていましたが、ここからは阿蘇高原を眺めることができます。野焼きのために防火帯など整備されている道ですが、長者原まで降りる際は道標や黄色いテープを見失わないようにしましょう。くじゅうの紅葉登山を紹介した今回のお便りを参考に、ぜひくじゅうの秋を肌で感じてみてください。

紅葉の時期に咲いてるお花

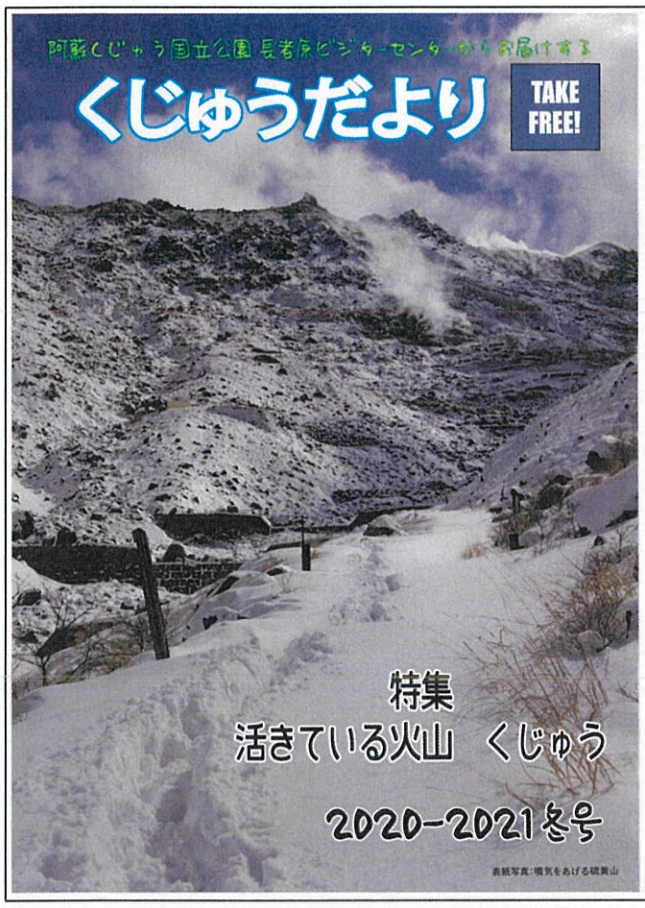
ヤマラッキョウ

リンドウ

マツムシソウ

アキノキリンソウ

紅葉の時期というと赤色でいっぱいなイメージがありますが、ピンクや黄色の花が目やいきやすくなります。紅葉と合わせてもとても可愛いらしい花もたくさん咲いています。ぜひ下を向いて歩きながら秋の花を探すことも楽しいかもしれません。



くじゅうファンクラブ活動情報

「くじゅうファンクラブ」は、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称です。

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。

教育・普及啓発　自然環境保全・調査　登山道等維持管理

玖珠美山高校の登山道整備

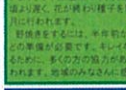
11月9日、玖珠美山高校地域産業科3年生27名と、指山の登山道整備活動を行いました。この活動は平成24年から始まり、今年で8回目を迎えます。指山(1,449m)は長者原の九重登山口を起点として登ることができる山です。登山道は雨水による浸食がすすんでいました。今回は指山自然研究路の分岐から約400mの区間で、登山道に丸太の板を入れたり、ロープを張ったり、登山道沿いの草刈りをしました。いつもに増して、元気な高校生の力で素晴らしい作業を行うことができました。参加してくださった皆様、ありがとうございました。

協力機関(スタッフ総勢22名)
環境省くじゅう管理官事務所、大分西部森林管理署、大分県警察本部地域課、大分県自然保護推進室、九重の自然を守る会、くじゅうネイチャーガイドクラブ、長者原ビジターセンター

タデ原湿原の防火帯切りがおこなわれました

11月10日、11日両日、タデ原湿原の防火帯切り(輪地切り)が地域の方々の協力により無事終わりました。

防火帯切りと野焼きの準備作業のひとつで、木道が延伸しないために行います。タデ原湿原では、貴重な植物の保全のため、通常行われる3月頃より遅く、芒が伸びり種子を散布した後の11月に行われます。



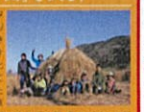
野焼きをするには、半年前から防火帯切りなどの準備が必要です。キレイな草原を維持するために、多くの方の協力があって野焼きが行われます。地域のみなさんに感謝ですね。

北千里のケルン補修

12月6日、秋晴となったこの日は、くじゅう地域で長年環境保全活動などに取り組んでいる「九重の自然を守る会」による、北千里ケルンの補修作業が行われました。ケルンとは、石を積み上げて登山道での遭難防止のための目印としたものです。作業としてはケルンの周辺の伸びた草を刈ったり、雨などで流れた石を積み直したりしました。北千里は高天原のときにはさいやすく、過去に遭難事故もおこっていて、こうした地道な作業が欠かせません。「九重の自然を守る会」の皆様ありがとうございました。

チームタデ原　「草こづみ」をつくる！

九重町の小中学生からなる「チームタデ原」、この4回目の活動は、すっかり冬らしくなった12月5日、来年の野焼きに備えてタデ原で草よせをしました。今年は、昔の人の生活と結びついた文化を学ぼうということで、寄せた草を使って阿蘇くじゅう地域で昔よく作られていた「草こづみ」をやりました。これは本来、がまが育ったと時期に刈って、冬の間のキャ馬の餌・敷きワラとして保存するためにやっていたものです。今回はタデ原で枯草となったススキなどを使ってつくりました。作業は順調に進み立派な草こづみができました。来年の野焼きまで展示しよう!!タデ原にありますので、くじゅうにお越しの際はぜひご覧ください。



山のトイレキレイに＋久住分れの避難小屋リニューアル！

11月7日、このとき4回目の「山のトイレをキレイに使い隊活動」(主催:大分県自然保護推進室)が行われました。あいにくの冷たい雨の中でしたが、大分県山岳連盟の皆さま他のご協力で、牧ノ戸登山口からおよそ40リットルの水を運んで、久住分れのトイレの清掃を行うことができました。今シーズンはもうそろそろ閉鎖の時期ですが、来春からも「キレイに使いたい」ですね！

さて、トイレの横にあった避難小屋が改築され、11月28日から利用可能になりました！新しい小屋は廃材を使った木造建築で、とってもきれいです。さらに!!携帯トイレ専用の個室も新設されました。携帯トイレを持参し、利用後ゴミ袋お持ち帰ください。

(※生ごみ処理・焼却はできません)

阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

<参加費無料/要予約 (団体向け)>

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

タデ原の自然観察会

<参加費無料/事前申込不要(個人の場合)>

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜(12～2月は隔週)・祝日10:00～12:00に開催しています。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。団体での申し込みの場合は事前にご相談ください。

(注)新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては、行事を中止することがあります。開催状況につきましては、随時お問い合わせください。また当日の検温へのご協力とマスクの着用をお願いいたします。

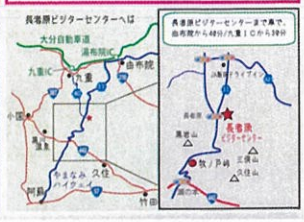
くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等維持管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員(年会費/個人一口3,000円、団体一口10,000円)や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、会員バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ(左下にQRコード記載)をご覧ください。

くじゅうだより 2020-2021冬号
発行元:くじゅうファンクラブ
(くじゅう地区管理運営協議会)
879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
長者原ビジターセンター
TEL & FAX 0973-79-2154
くじゅうファンクラブホームページ:
http://kujufanclub.com/
★くじゅうの最新の自然情報などはフェイスブックで!
https://ja-jp.facebook.com/
★活動報告やくじゅうの基本情報などはくじゅうファンクラブホームページで!
http://kujufanclub.com/

リレーボ 聴きたいのウチとこと

今年は新型コロナウイルスの関係で色々な制限がありました。またくじゅう地域では7月に豪雨災害に見舞われ大変な年でもありました。その中でも、くじゅうの季節は流れて、あっという間にその季節になります。冬のくじゅう特有の白な雰囲気に覆われた山々を眺めたり、タデ原で動物の足あとを発見できたり…寒い分けそうな色々な楽しみ方があります。そんな楽しみが多いくじゅうで、今年もきれいに整備されたくじゅう連山を眺めるのが今からとも楽しみです◎　(渡辺)

長者原ビジターセンターへは



火山のめぐみ

(写真:九州電力パンフレットより)

地熱

くじゅうでは数カ所で地熱発電がおこなわれています。中でも最大のものが「八丁原地熱発電所」。その出力は11万キロワットで、一般家庭3万7千世帯分の電力をまかなえるそうです。

くじゅうの北側・飯田の人々は、硫黄山の噴気で天気を占ってきました。煙がまっすぐ上ると晴れ、手前に流れて立ち込めると雨とされます。筋湯温泉に近い噴気地帯の「小松地獄」では、噴気でたまごをゆでることもできます。

(災害復旧のため2020年7月～閉鎖中)

温泉

火山の恵みといえば温泉！くじゅう周辺では、法華院、釜ノ口、筋湯、湯坪、黒川、久住、七里田、長湯、湯平などいろんな温泉が湧いています。温泉成分を含んだ水＝くさい水⇒くさみ・くたみ⇒くすみ⇒久住となったとの説も！(異説もあります)

星生山の北東にある硫黄山のまわりでは、江戸時代に硫黄の採掘の記録があり、地域の貴重な産業となっていました。その後を受けて栄えた硫黄鉱山も、1971年をもって閉山となりました。いまでもその遺構が見られます。

噴気

鉱物

火山のこわさ

火山に登る

気象庁が発表する「噴火警戒レベル」は、現在「レベル1：活火山であることに留意」となっています。くじゅうの場合、硫黄山の火口からおおむね500m以内は立ち入り禁止です。右の地図の赤円の範囲があてはまります。

次の噴火は300年後かもしれないし、明日かもしれません。現役の火山だということを頭の片隅に入れて、登山を楽しみましょう。

1995年の噴火

1995年10月11日、星生山の北側斜面で突如噴火が起こりました。噴煙の高さはおよそ千メートル、小規模な火山泥流も発生しました。この噴火は257年ぶりとされます。

火山にとって数百年の沈黙は一瞬のようなもの。硫黄山や星生山周辺では小規模な噴火が繰り返されてきました。久住分れの避難小屋のあたりも、3,700年前の水蒸気噴火の火口だそうです。

活きている火山　くじゅう

九州の活火山といえば、火の山「阿蘇」、鹿児島のシンボル「桜島」、平成新山の「雲仙」などが有名です。でも、知っていましたか？くじゅう連山も今なお噴気をあげる現役の火山なのです。

いまから25年前、平成7(1995)年の噴火では、千メートルの高さまで噴煙をあげ、それは大分市内からもはっきりと見え、熊本市でも降灰が確認されました。今号のくじゅうだよりでは、そんな九重火山の歴史とめぐみをたどってみます。

(注)今号の文中で国立公園内の地域名山域名としてはくじゅう・くじゅう連山と表記しますが、火山名としては気象庁の記載にならって九重火山と表記しています。

①いつから噴火しているの？

雲仙が50万年前(古期雲仙を含む)、阿蘇が30万年前から活動しているのと比べると、比較的若い火山と言えるでしょう。といっても、日本列島に人類が住みつく前から活動しているんですよ。

九重火山群の中では、西の猟師岳や黒岩山などが最も古く、およそ20万年前からと考えられています。ただし、これは西にある涌蓋山を別の火山群とした場合です。(涌蓋火山群はおよそ100万年前から30万年前に活動した火山です。)

九重火山群の中では、西の猟師岳や黒岩山などが最も古く、およそ20万年前から9万年前、逆に新しいのは東の端にある黒岩です。

②最大の噴火は？

くじゅう連山でこれまでに最大の噴火は、いまから5万4千年前の、「飯田火砕流噴火」とされています。積もった火砕流の厚さは最大で200メートルにもなり、北側の飯田高原や南側の瀬の本・久住山を埋めつくしました。噴煙の高さは1万メートルにも達したと考えられます。

噴出場所ははっきりしませんが、いまの久住山・星生山・三俣山のあるあたりと推測されています。

こんな噴火がいま起こったら、と思うと、恐ろしいですね。

③いちばん新しい山は？

黒岳はくじゅう連山でいちばん新しい山とされています。

はめずらしく、全体が深い森におおわれているので、古い山にも思えます。でも、実は一番若い新参者なので、次のような特徴が見られます。

・土壌の発達が悪く、大きな岩がたくさん目につく。岩の間に隙間が多く風穴もみられる。

・山体の開析が進んでおらず水の流れる侵食谷が少ない。

黒岳の縦走は、尾根と谷がはっきりせず、岩峰やくぼ地の上り下りが多く、ハードなルートです。

くじゅう連山で最も新しくできた火山は、東の端にある黒岳で、およそ1600年前とされています。(大船山の山頂部もほぼ同時期という説もあります)。

黒岳はくじゅう連山で最も新しくできた火山は、東の端にある黒岳で、およそ1600年前とされています。(大船山の山頂部もほぼ同時期という説もあります)。

④くじゅうの下には何がある？

九重火山の下には、いろいろな時代の古い火山岩が埋もれています。中でも、くじゅうの北側、九酔渓の付近に中心を持つ直径8kmの埋没カルデラが知られており、地名から「猪牟田カルデラ」と呼ばれています。いまではその形跡を地上の地形から知ることはできません。

ここは、およそ100万年前の「耶馬渓火砕流」と90万年前の「今市火砕流」の2回の巨大噴火を起こした火山でした。堆積物は関東地方でも確認され、大阪府でも何と数十cmの厚さで積もっています。

九重火山と猪牟田カルデラは別々の火山とされていて、直接の関係はありませんが、すぐお隣どうしの関係といえるでしょう。九重山も、いつの日か、阿蘇や猪牟田のように巨大カルデラ噴火をおこすのでしょうか？？

⑤自然情報の提供

・植物の開花や紅葉の進み具合を調べ、「自然情報」として館内に掲示するとともに、メーリングリスト登録者および近隣の観光案内所や施設に随時配布した。

・今年度作成した自然情報は次の通り。

タデ原自然情報：4～10 月に月 2 回、計 13 回

ツクシシャクナゲ開花情報：4～5 月に 2 回

ミヤマキリシマ開花情報：5～6 月に 5 回

紅葉情報：10～11 月に 6 回

マンサク開花情報：2～3 月に 3 回

・タデ原やくじゅう連山を訪れる人にとって役に立つ情報源となっている。今後もきめ細かな情報提供を心掛けながら継続していきたい。

タデ原湿原　自然情報　【2020/05/03】

タデ原湿原にも春の花たちが咲いてきました。
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、不要不急の外出や県外をまたぐ帰省、旅行などは慎み、新型コロナウイルス感染症拡大防止に力を合わせて頑張りましょう。今は我慢の時です。
これからもタデ原湿原自然情報を定期的に送りますので、ご自宅でご覧になりタデ原湿原の春をお楽しみください。

↑　4月30日　キスミレ
タデ原湿原には少ないですが存在感がありますね。

↑　4月30日　サクラソウ
ピンクのサクラソウが咲きだしました。

↑　4月30日　リュウキンカ
たくさん咲いてきました。

↑　4月30日　タデ原湿原の風景
野焼きの後、たくさんの花芽が出てきました。

↑　4月30日　ハルリンドウ
可愛いうす紫の花がたくさん咲いてきました。

↑　4月30日　ミツバツチグリ
綺麗に咲いています。

令和2年6月4日
作成：くじゅう地区管理運営協議会

ミヤマキリシマ開花情報 Vol.3

調査日	場所	開花状態
6月2日	首掛山（1503m）	見ごろ
6月2日	黒岩山・上泉水山（1502.5m・1447m）	見ごろ
6月2日	扇ケ鼻（1698m）	咲きはじめ
6月3日	北大船山・段原（1706m）	4～5分咲き
6月3日	大船山（1786.3m）	咲きはじめ

標高1500m～1600mの山々で、ミヤマキリシマは見ごろを迎えています。平治岳も今週末から来週にかけて見ごろを迎えそうです。1700m以上の山も咲き始めています。今後の天候にもよりますが、今月中旬になると見ごろを迎えそうです。
新型コロナウイス感染症の緊急事態宣言は解除されましたが、クラスタが発生している地域もあります。山頂付近や登山道などで密集、密接にならないよう感染防止にご協力願います。
くじゅう連山のミヤマキリシマ情報は、今後も定期的に発出していきます。
タデ原湿原やくじゅう連山の最新情報については、Facebookもチェックしてみてください。
https://www.facebook.com/choujabaruvisitor

6/2　黒岩山・上泉水山　↑

6/2　扇ケ鼻　↑

6/3　北大船山・段原　↑

6/3　大船山　↑

2．環境教育活動

(1) チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～

・平成27年度にくじゅう地域で開催されたKODOMOラムサールをきっかけに、地元の小中学生で結成された自然保護活動グループ。現在のメンバーは中学生3名、小学生4名の計7名（今年度2名加入）。

・子どもが主体となった活動グループを目標とし、子どもたち自身で活動を計画・実行・振り返りをおこなっている。その活動のサポートを当協議会がおこなった。

・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、例年の活動開始日より遅れて8月のスタートとなった。活動する際も感染防止策をとりながら屋外での活動を主に取り組んだ。

・他の湿地との交流の機会を持つことができなかったのは残念であったが、タデ原に「草こづみ」を復活させるなど、充実した活動をおこなうことができた。

令和2年度 「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」活動一覧

開催日	概要	参加者 （人、スタッフ含む）
8月2日(日)	活動内容決めとタデ原半周散策	13
9月12日(土)	タデ原学習と星空観察	14
10月25日(日)	キッズガイドと森の食べ物	13
12月5日(土)	タデ原の草よせと草こづみ作り	13
2月23日(祝)	わら運びと新聞作り	14
3月14日(日)	野焼きの見学→雨天のため4月に延期	―

年間活動計画の話し合い

秋のキッズガイドに向けての学習

秋のキッズガイド

タデ原で草こづみを作成

(2) 総合学習支援活動

協議会の会員である九重町及び竹田市で、小中学校の総合学習の支援活動を受け入れている。九重町立飯田小学校では、総合学習で各学年ともタデ原について学んでおり、講師の派遣やガイドの支援などを実施した。

九重町立飯田小学校５年生

・12 月 2 日　(11 名)

・5 年生はタデ原についての学習や「身近な環境問題」について考える授業をおこなった。子どもたちは熱心にメモを取りながら学習している様子がみられた。

九重町立飯田小学校３、４年生

・12 月 17 日　(3 年生 10 名　4 年生 7 名)

・3 年生はタデ原湿原で見つけたものをタブレットで撮影し、それについての質問に答えた。特にどのように湿原が守られているのかを学習した。

・4 年生は「地域で働く人たちを調べる」一環として長者原周辺およびビジターセンターの仕事について知ることを目的に学習した。ビジターセンターで働く人について、仕事のやりがいや大変なことについてインタビューを受けた。

Ⅲ．自然環境保全・調査活動

１．自然環境保全活動

(1) 外来種駆除活動

特定外来生物であるオオハンゴンソウがタデ原周辺でも繁殖し、問題になっている。今年もくじゅう地区管理運営協議会の会員等と連携しながら、以下の通りタデ原湿原周辺での駆除活動を実施した。

8月23日　オオハンゴンソウ駆除　九重の自然を守る会主催【職員が参加】

8月30日　オオハンゴンソウ駆除　九重の自然を守る会主催【職員が参加】

11月2日　オオハンゴンソウ駆除対策会議　九重町役場主催【職員が参加】

11月29日　オオハンゴンソウ駆除　九重の自然を守る会主催【職員が参加】

その他随時、九重の自然を守る会によるオオハンゴンソウ駆除活動時に道具等の貸し出しを行った。なお、例年実施している飯田地区まちづくり協議会、MS&ADホールディングスによる外来種駆除活動は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、ボランティア募集の制限や実施の見送りとなった。

(2) 美化清掃活動

7月下旬から8月中旬にかけて長者原周辺でおこなわれた自然公園クリーン作戦に協力し、道具の貸し出しや軍手・お茶の提供をおこなった。また、11月7日に大分県主催「山のトイレをキレイに使い隊運動」に参加し、久住分かれに設置されている山岳トイレの美化清掃活動への協力を呼び掛けた。

(3) 野焼き活動

くじゅう地区では、草原景観の維持と希少種の保護などを目的に各地で野焼きが実行されている。今年も野焼きを実行する各団体と連携しながら、野焼き活動の支援を行った。

4月5日　タデ原野焼き　飯田高原野焼き実行委員会主催【職員が参加・防火用具貸出・軽食提供】

4月11日　泉水山野焼き　飯田高原野焼き実行委員会主催【職員が参加・防火用具貸出・軽食提供】

3月16日　沢水キャンプ場野焼き　竹田市主催【職員が参加・お茶提供】

その他、地域の団体が行う野焼き活動の際に、防火用具の貸し出しを行った。

(4) 九重町自然環境保全推進委員会

年3回開催された九重町の自然環境保全推進委員会に委員として出席し、生物多様性ここのえ戦略の推進や、戦略に基づいた啓発活動の策定に協力した。

2．調査活動

(1) モニタリングサイト1000里地調査

タデ原湿原は、2013年から環境省のモニタリングサイト1000里地調査の調査地として登録されている。これをうけて、九重の自然を守る会が主催するタデ原の植物のフェノロジー調査（3月～11月に毎月1回実施）に職員が参加するなどして協力した。

(2) 長者原地区植物保全協議会

大分県のやまなみハイウェイ歩道拡幅工事に伴う長者原地区植物保全協議会に、2017年度より委員として参加している。今年度も、やまなみハイウェイ沿線の植物調査及び工事方法について検討する会議に次の通り出席し、調査等を行った。

第14回協議会および現地調査（5月14日）
第15回協議会および現地調査（9月8日）
法面伐採跡の植生モニタリング（9月30日）
第16回協議会（3月5日）

(3) 希少種生育地の保全

環境省の委託による希少植物生育地のフロラ調査（実施主体：久住高原みちくさ案内人倶楽部）に協力し、板切牧野、石原牧野、小柳牧野、新町牧野、沢水周辺、牛床湿地の植生調査に職員が参加した。

Ⅳ．登山道等管理活動

１．登山道保全活動

(1) 登山道整備活動

・令和２年 11 月９日（月）、玖珠美山高校３年生地域産業課３年生 27 名と、くじゅう地区管理運営協議会会員と協力し、指山の登山道保全整備活動を行った。階段補修、ロープ張り替え、藪掃いの担当に分かれ、会員が作業指導を行った。

・今後も会員の協力を得ながら登山道整備活動を継続していきたい。

参加した当協議会会員（全 22 名）

環境省くじゅう管理官事務所、大分西部森林管理署、大分県警察本部地域課、大分県自然保護推進室、九重の自然を守る会、くじゅうネイチャーガイドクラブ、長者原ビジターセンター

(2) 登山道についての情報収集・情報提供

・登山者から寄せられた登山道についての情報を集約し、環境省、林野庁、大分県等の関係機関に提供した。

・寄せられた情報は、倒木、スズメバチ、久住分かれ携帯トイレブースの利用マナーや施設の破損状況についてである。また、登山道の状況については、一般の登山者などから主に電話で多くの問い合わせがあり、これらについても丁寧な対応を心掛けた。

２．長者原周辺の美化清掃活動

(1) 清掃業務

・環境省から清掃を受託している長者原地区にある 2 つの公衆トイレについては、職員による日常清掃を行った。

・ミヤマキリシマの時期・夏休み中・紅葉の時期などには１日に２回点検や清掃を行うなど対応を強化し、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。

(2) 園地管理業務等

・長者原園地、駐車場及びその周辺において、ゴミ拾い等の清掃活動を随時実施した。また、タデ原周辺の自然歩道脇の草刈りを随時実施した。

・長者原園地周辺の落ち葉の清掃を行った。

・積雪時には駐車場の白線が見えなくなるので、通路にコーンを設置して利用者の混乱を防いだ。

・牧ノ戸峠駐車場および登山口においては、大分県による管理を補助する形で、随時ゴミ拾いを行った。

(3) 長者原園地及び牧ノ戸峠園地のクリーンアップ作業

・第5回 山の日記念全国大会 おおいた2020（新型コロナウイルス感染症拡大のため2021年8月11日に延期）に向けて、九重・飯田高原観光協会（公私隊）に委託を行い、長者原園地及び牧ノ戸峠園地のクリーンアップ作業（主に駐車場の樹木の剪定作業）を実施した。

(4) タデ原湿原木道の保守業務

・3月末に実施されるタデ原の野焼きに備え、タデ原湿原木道が延焼しないよう、11月10日、11日に木道の周囲の防火線切りおよび草寄せの作業を行った。

・タデ原湿原木道を随時巡回し、異常個所がないかどうか確認するともに、ごみ拾いを行った。

防火線切り

草よせ

Ⅴ．その他

1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度

(1) 賛助会員制度

・パンフレットの配布等でくじゅうファンクラブの活動に賛同する賛助会員を募った。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため来訪を控えている賛助会員向けに、入会・継続手続き「ありがとうキャンペーン」を実施し、6 月 30 日までに入金のあった賛助会員様へオリジナルグッズのプレゼントを行った。

・賛助会員数　個人会員：90 件、団体会員：8 件

（参考：令和元年度賛助会員　個人会員 52 件　団体会員 8 件）

(2) 寄付制度

①募金箱の設置

・くじゅう地区管理運営協議会の会員および賛助会員の関係施設のうち、賛同していただいた施設に募金箱を設置し、協議会活動への支援を募った。

・募金箱への募金額　計 110,074 円

②寄付金の申込

・くじゅう連山の環境保全を呼びかけるチラシを配布し、寄付を募った。特に今年は令和 2 年 7 月豪雨による、くじゅう連山登山道の甚大な被害状況が報道され、「復旧に役立てて欲しい」と多大なるご寄付をいただいた。

・個人寄付 11 件　計 171,130 円

・団体寄付 2 件（株式会社橋本建設様、阿蘇くじゅう ROUTE11 プロジェクト様）　計 43,600 円

寄付金（申込分）　計　214,730 円

③タデ原協力金付ツアーを始めとする環境保全のための協力金付ツアー及び宿泊プラン販売等からのご寄付

・令和元年度から始まったタデ原協力金付ツアーからの寄付を皮切りに、令和 2 年度は当協議会会員や国立公園満喫プロジェクト オフィシャルパートナーを中心に、環境保全のための協力金付ツアー及び宿泊プラン・飲料水等の販売が行われ、その利益の一部からご寄付をいただいた。（当協議会会員は、環境省補助事業「令和 2 年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業」を活用）

・協力金（寄付金）付ツアー及び宿泊プラン・飲料水を販売するなどしてご寄付いただいた団体（順不同・敬称略）

有限会社星生温泉（九重星生ホテル）、有限会社法華院温泉（法華院温泉山荘）、
NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ、大分朝日放送株式会社
株式会社 HIS、九電産業株式会社

・寄付金（協力金分）計　357,180 円

2. 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置

(1) 長者原ビジターセンターの運営

① 長者原ビジターセンターの運営

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、環境省担当官と協議のうえ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための運営に関するガイドラインを作成して随時見直しを行い、ガイドラインに基づいて運営を行った。

・長者原ビジターセンター入口に、検温計とアルコール消毒剤の配備を行い、マスクの着用を呼び掛けた。また受付にはビニールシートを設置して、飛沫による感染予防をおこなった。

・清掃時には手すりや展示物など人の手に触れる部分のアルコール消毒を行った他、展示物には展示を触った後に手を洗うように呼び掛けの掲示を行った。また自然情報の提供においては、自然情報を Web 上でも楽しんでもらえる情報提供を心掛けたほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、登山や散策時における予防策や感染を広げないための注意喚起を行った。

・新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館一覧

4 月 4 日～ 7 日　臨時休館（大分県の外出自粛要請のため）

4 月 8 日～10 日　開館再開（県営施設等の利用再開のため）

4 月 11 日～5 月 17 日　臨時休館（国立公園内での感染拡大防止および、4/18 以降の緊急事態宣言全国拡大のため）

5 月 18 日～6 月 18 日　2 階案内窓口のみ再開。ビジターセンター入口にアルコール消毒液を設置し、入館時に手指の消毒やマスクの着用徹底を呼び掛け。

6 月 19 日　全館利用再開。ハイビジョンシアターの上映については、検温をしたうえで最大人数を 10 名までと人数制限を設け上映再開。

2 月 14 日　1 階・2 階にサーモカメラ設置

くじゅうファンクラブ（阿蘇くじゅう国立公園　長者原ビジターセンター　Aso-Kuju National Park）
2020年5月16日

きょうは雷混じりの大雨になっています！旅行や登山には1ミリも向かない天気の中、緊急事態宣言対象地域の縮小を受けて、長者原駐車場・タデ原木道・牧ノ戸峠駐車場などの利用が再開されました。地区ごとの詳細は、次のページをご覧ください。
https://kujufanclub.com/news/#post-1955

また、大分県自然保護推進室からは、登山に当たって、次の注意喚起があります。計画を立てられる前に、必ずお読みください！
https://www.pref.oita.jp/.../precautionswhenmountaineering.ht...

上の注意喚起の中に、「お住まいの都道府県からの要請を踏まえて」とありましたので、いくつか調べてみました。

まず、大分県からは、県民に対して、「県境を越えた不要不急の移動を自粛する」よう呼びかけられています。また、「散歩はもちろん、買い物、レストランや居酒屋等での飲食などは差し支えない」が、「３つの密が重ならないよう、店舗や客において十分注意」するようにとの要請でした。
https://www.pref.oita.jp/uploaded/.../2097770_2842871_misc.pdf

次に熊本県。「先日、不要不急の外出自粛要請について、解除のお知らせをしました」が、「不要不急の帰省や旅行など、県境を越える移動や、三つの密のある場所への移動については、自粛をお願い」ということです。
https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_33007.html

最後に福岡県です。「人との接触を８割減らすことを意識し、不要不急の外出を控える」「県を越えての不要不急の帰省や旅行などの移動は、避けること」となっており、より厳しい表現が継続しています。一方で、博物館、美術館、パチンコ店など、感染対策を条件に営業は再開可能のようです。
https://www.pref.fukuoka.lg.jp/.../covid19emergency-details.h...

なかなか、他県の方に「くじゅうにおいで！」とは言えない情勢が続いていますね😢　まだ気を抜いてはいけません。感染症は人の移動と接触でしか、拡大しないからです。でも、事態はいい方に向かっているはず！いつかくじゅうに登れるよう、みんなで乗り越えましょう！

大分県民の方も、登山届の提出など県からの要請を守るだけではなく、無理のない計画を立てて、例年よりは１段階も２段階も安全に配慮した行動をお願いいたします。SNS等での情報発信の際も、くじゅう登山を自粛している方への配慮をお願いしたいところです。個別のルートの状況については、後日お知らせいたします。
#長者原 #くじゅう #登山 #自粛 #Chojabaru #Kuju #AsoKujuNationalPark

フェイスブックによる情報発信

② 自然ふれあい事業の実施

環境省担当官と協議のうえ、新型コロナウイルス感染症拡大時の運営に関するガイドラインを作成して随時見直しを行い、下記のような運営を行った。

4月 1日～　自然ふれあい行事（レクチャー、自然観察会）の団体の受付中止

5月 1日～5月31日　自然ふれあい行事（レクチャー、自然観察会）の個人・団体の受付中止

6月 1日～6月30日　自然ふれあい行事（自然観察会）の個人・団体の受付中止

6月19日～国立公園レクチャーの受付再開（シアタールームでは検温をしたうえで10名程度まで可能。屋外は可能。）

7月1日～　自然観察会の受付再開（ガイドと参加者に検温、マスク着用。但し熱中症予防の観点から、人との距離を十分取ったうえで、マスクを外してもよい。）

(2) その他施設運営

当協議会が環境省より清掃受託している長者原地区の２つの公衆トイレにおいては、洗面台に石鹸を設置して手洗いを呼び掛ける掲示物を作成したほか、清掃時にはドアノブや水洗カランなど人の手に触れる部分のアルコール消毒を行った。

(3) その他施設の運営補助や情報提供

4月29日～5月15日は、環境省が管理する長者原地区の２つの公衆トイレと駐車場・タデ原湿原、及び大分県が管理する牧ノ戸峠の駐車場が閉鎖されたが、掲示物を作成したりコーンや看板を貸し出すなどして閉鎖に協力を行った。またくじゅう連山周辺の公共施設の開閉状況を調査し、随時長者原ビジターセンターホームページやフェイスブックページにて利用者へ情報提供を行った。

2020.05.11

くじゅう連山登山口の各施設の閉鎖状況について

くじゅう連山の各登山口の駐車場及び公衆トイレは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、管理者によって閉鎖されている箇所がございます。
5月10日以降の閉鎖状況について、各管理者に確認をいたしましたので、お知らせいたします。

閉鎖箇所

○長者原登山口（九重登山口）
・すべての駐車場…5月31日まで(管理者:環境省、大分県)
・公衆トイレ…5月31日まで(管理者：環境省)
・長者原ビジターセンター、タデ原湿原の木道の一部…5月31日まで(管理者：環境省)
○牧ノ戸峠登山口：駐車場及び公衆トイレ…当面の間(管理者：大分県)
○赤川登山口：駐車場及び公衆トイレ…当面の間(管理者：大分県、竹田市)
○沢水登山口：駐車場及び公衆トイレ…当面の間(管理者：竹田市)
○久住分かれ山岳トイレ…当面の間(管理者：大分県、竹田市)

施設の閉鎖状況について今後変更があった場合については、お知らせいたします。
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

ホームページによる国・自治体等管理施設の情報提供

(4) 大分県での緊急事態宣言時の駐車場の利用状況の調査

4 月 16 日～5 月 14 日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大分県や隣接する都道府県においても緊急事態宣言が発令され、県外への移動自粛が呼び掛けられた。5 月 3 日、5 月 6 日にくじゅう連山の各登山口の駐車場利用状況を調査し、関係機関に情報提供を行った。

令和2年度　くじゅう連山登山口駐車場　利用状況

作成：くじゅう地区管理運営協議会

（1）5月5日（火・祝）の場所ごとの状況

調査時間）10：30～13：40

駐車場		駐車台数	うち県外	備考
竹田市	今永登山口	2	1	
	磨崖寺登山口	4	0	
	一番水登山口 レゾネイト第3駐車場	3	0	
	沢水展望台登山口	4	3	沢水キャンプ場側はロープで封鎖のため利用なし。
	南登山口	21	5	店舗が営業中のため、観光客の利用と思われる。もともと登山者の利用は少ない。
	赤川登山口（※）	3	1	駐車場は閉鎖のため、近くに路駐している。
	小　計	37	10	県外ナンバーの割合 27%
南小国町	湯の本登山口 ジオパーク駐車場	3	0	すべて熊本ナンバー。
	小　計	3	0	県外ナンバーの割合 0%
九重町	鉢盆窟・舟頭山登山口	2	0	
	牧ノ戸峠登山口（※）	46	27	路線バス転回スペース周辺の駐車枠等に 12 台、バス停と路肩に 34 台。
	大曲登山口	6	3	整備された駐車場ではない。
	長者原登山口（※）	27	18	西側の公共駐車場に 3 台、長者原ヘルスセンター（休業中）の前に 24 台。長者原周辺利用者あり。
	一目山登山口	20	9	
	涌蓋山ひぶん湯登山口	1	1	
	吉部登山口	7	4	
	小　計	109	62	県外ナンバーの割合 57%
由布市	男池登山口	36	11	登山者よりも、名水百選男池への観光客の比率が高いと考えられる。
	白水鉱泉国設荘登山口	2	1	
	小　計	38	12	県外ナンバーの割合 32%
合　計		187	84	県外ナンバーの割合 45%

（※）は公共駐車場閉鎖中

1

・主な調査地の状況

沢水展望台登山口駐車場（4 台）

南登山口駐車場（２１台）
ソフトクリーム屋とコーヒーショップが営業中。

赤川登山口駐車場（3 台）
駐車場には停めずに、周辺の路肩を利用している。

牧ノ戸峠登山口駐車場（計４６台）
バス転回場周辺。枠外にも停めている。

牧ノ戸峠登山口周辺（計４６台）
牧ノ戸峠から筋湯に下りる車道に停めている。

牧ノ戸峠登山口周辺（計４６台）
九州横断バスの停留場にも停めている。

2

3．令和２年７月豪雨への対応

(1) 被害発生時の経緯

令和２年７月３日より九州全域で降り続いた雨は、３日夜から４日にかけて球磨川の氾濫など大きな被害をもたらした。その後豪雨の中心はしだいに北上し、6 日以降くじゅう連山周辺でも甚大な被害が発生した。表はくじゅう周辺のアメダス観測点における日降水量であり、色塗りの値は土砂災害警戒情報が発令された日と地域を示している。雨は強弱を繰り返しながら 14 日間にわたって降り続いた。

７月３日の降り始めからの１日の降水量（mm）（気象庁アメダスより）

	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16
玖珠	15.5	14.0	14.5	181.0	294.0	29.0	45.5	70.0	12.5	24.0	2.0	67.5	3.0	2.5
日田	8.0	10.0	12.5	195.5	240.5	37.5	83.5	133.5	16.5	18.0	3.0	96.0	2.0	1.5
竹田	50.5	32.0	5.5	42.0	105.0	38.0	21.5	15.0	95.5	41.0	0.0	43.0	0.5	0.0
南小国	35.0	41.0	15.5	194.5	344.0	6.5	47.5	75.5	110.0	28.0	1.0	72.5	2.0	0.0

(2) 情報収集

豪雨被害に関する断片的な情報しか届かない中で、迅速な情報提供をおこなうために、登山口及びアクセス道路と、登山道に関する情報収集に努め、電話等での問い合わせに応じるとともに、収集した情報を関係機関へ提供した。情報の収集には、協議会会員である各団体の協力をいただいた。

登山口および登山道の豪雨被害に関する情報収集（7 月 31 日まで）

〔　〕は写真情報の提供をいただいた団体、〔　〕のないものは協議会職員による。ただし、NGC はくじゅうネイチャーガイドクラブである。8 月 1 日以降も随時情報収集を行ったが、表では省略した。

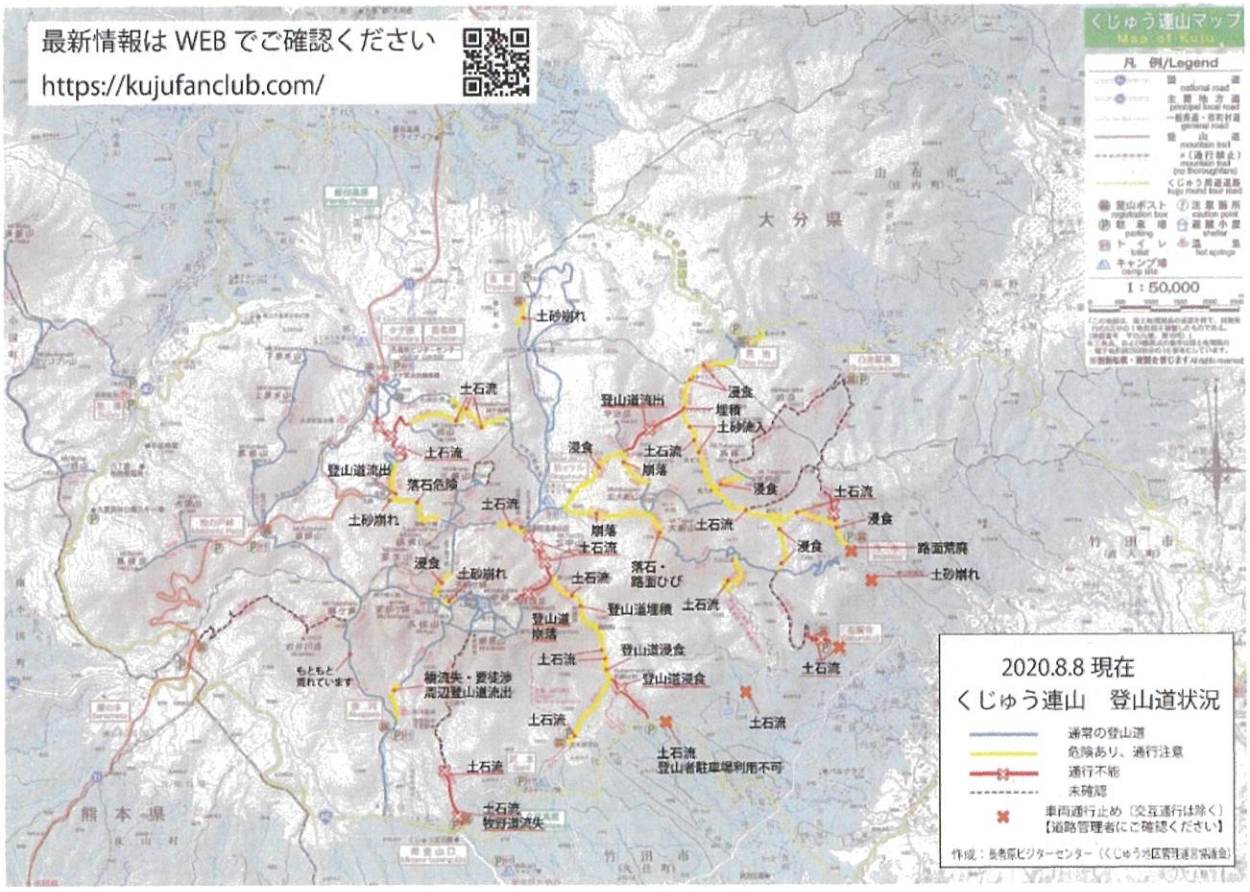
確認日	確認箇所
7 月 8 日 雨・曇	【登山口】長者原、吉部、疥癬湯、一目山、瀬の本、赤川、南登山口、展望台、一番水、岳麓寺 【登山道】長者原～雨ケ池、赤川～徒渉点、一番水～朽網分れ先
9 日 雨	【登山口】男池〔環境省〕 【登山道】牧ノ戸～久住分れ〔環境省〕、長者原～硫黄山道路～坊原～大曲
10 日 雨	【登山口】疥癬湯、一目山、瀬の本、赤川、南登山口、展望台、朽網分れ、岳麓寺
11 日 雨	【登山道】長者原～硫黄山道路～スガモリ越〔NGC〕、牧ノ戸～久住分れ～北千里～スガモリ〔NGC〕
12 日 雨	【登山口】岳麓寺〔竹田市〕 【登山道】男池～ソババッケ～平治～坊ガツル～吉部〔NGC〕
13 日 少雨	【登山道】長者原～雨ケ池～坊ガツル～北千里〔環境省〕
14 日 雨	
15 日 少雨	【登山口】今水、岳麓寺、一番水、南登山口 【登山道】赤川～久住山～久住分かれ～扇ケ鼻～赤川、長者原～九州自然歩道～牧ノ戸
16 日 曇	【登山道】長者原～研究路～指山〔NGC〕、牧ノ戸～稲星～白口〔環境省〕、空撮〔西部森林管理署〕、 展望台～朽網分れ～鍋割坂、牧ノ戸～猟師、牧ノ戸～黒岩～泉水～長者原
17 日 曇	【登山口】吉部〔環境省〕、赤川、南登山口、沢水展望台、男池
19 日	【登山道】坊ガツル～大船〔NGC〕
20 日	【登山口】男池、白水鉱泉
21 日	【登山道】沢水展望台～朽網分れ～鉾立峠～坊ガツル
23 日	【登山道】長者原～スガモリ～三俣山～坊ガツル〔NGC〕
27 日	【登山道】赤川～渡渉点先
28 日	【登山道】坊ガツル～立中山
29 日	【登山道】男池～ソババッケ～風穴～黒岳〔NGC〕、男池～大戸越～段原～風穴〔NGC〕
30 日	【登山道】有氏～ガラン台～入山公・板切～大船〔環境省〕
31 日	【登山道】今水～風穴～ソババッケ～ガラン台～今水

(3) 情報発信

収集した情報を、広く一般に向けて発信した。

①ホームページ

当初は「最新情報」として発信したが、7 月 14 日以降は特設ページを開設し、集まった情報を地図上に示して公開した。新しい情報が入りしだい地図は修正し、2020 年末までに 23 回の更新をおこなった。



②フェイスブック

通常は週に 1～2 回自然情報などを配信しているが、豪雨後は災害の状況をリアルタイムで伝えるために頻繁に投稿をおこなった。土石流のコースを示した 7 月 12 日の投稿（16 ページ参照）には 109 件のシェアがあり、他の投稿も反響が大きかった。

配信日時	主な内容
7 月 4 日 12:11	人吉地方で豪雨、くじゅうに被害なし
7 月 7 日 8:43	臨時休館の案内、九酔渓倒木で通行止め、四季彩ロード規制あり
7 月 8 日 14:24	牧ノ戸・九酔渓通行止め、土石流多発のもよう
7 月 9 日 17:01	雨続く、全面的に危険
7 月 11 日 8:00	臨時休館の案内
7 月 12 日 7:52	臨時休館の案内
7 月 12 日 16:02	大分県自然保護推進室からの注意喚起、土石流詳報
7 月 15 日 18:19	くじゅうファンクラブ登山道情報リンク、雨落ち着く
7 月 19 日 15:34	雨が上がって 4 日目
7 月 20 日 14:54	くじゅうファンクラブ登山道情報リンク
7 月 27 日 14:51	出水は少しずつ減少
7 月 29 日 11:50	立中山ミヤマ復元、登山道通行困難
8 月 1 日 15:37	登山の際の全般的な注意
8 月 4 日 16:48	くじゅう西部の山々は大きな被害なし

③マスメディア

以下のテレビ局、新聞社、雑誌等の取材に応じ、現状を伝えた。ニュース番組や雑誌の対談への出演もおこなった。

・テレビ局：NHK 大分、NHK 福岡、テレビ大分、大分放送、大分朝日放送

・新聞社：大分合同新聞、西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、

・雑誌：季刊のぼろ編集部

④電話による問い合わせ対応

豪雨災害の発生直後から、多くの問い合わせに対応した。直後は災害の状況が分からないために全面的な注意を喚起する返答が多くなったが、状況が詳しく分かるにつれて、登山ルートごとに現状をお知らせできるようになった。

(4) 簡易復旧への取り組み

被災した施設等のうち登山道については、管理者の有無にかかわらず、ロープや目印の設置や倒木・転石の除去といった簡易的な復旧作業を協議会主体で実施することとし、関係団体の同意を得て次の①～⑦の登山道の作業を協議会構成団体に委託した。また、下記以外の登山道についても、協議会職員及び関係者が通行する際に適宜目印やロープを設置した。

① 長者原～雨ケ池間、指山自然研究路雨ケ池側（九州自然歩道線）

② 坊ガツル～大戸越～北大船山方面入口（大戸越線、大船山平治岳線）

③ 男池～ソババッケ～大戸越（岳麓寺男池線、大戸越線）

④ ソババッケ～風穴～前セリ（岳麓寺男池線）

⑤ 吉部～坊ガツル、法華院～北千里（吉部坊ガツル線、長者原法華院線）

⑥ 猪鹿狼寺本堂跡先～神明水（久住山南登山道線）

⑦ 一番水～朽網分れ～佐渡窪（九州自然歩道線）

登山道以外の被災施設（駐車場、駐車場までの取りつき道路、牧野道、砂防施設など）については、各施設の管理者が主体となって、復旧作業を継続中である。さらに、管理者が存在する登山道については、簡易復旧だけではなく橋や迂回路の設置も検討している。一方で、管理者が不在でありなおかつ簡易的な作業では復旧が難しいルートについては、復旧の見通しが立っていない。

4. 職員研修実績

① 伐木等従事者追加補講（大径木）

開催日時：令和２年 11 月 19 日　参加者：大島、伊東、種村

概要：伐木等に関する法令が変わったことから、追加講習を受講した。

② 2020 年度野焼き支援ボランティア　初心者研修会

開催日時：令和３年２月 13 日　　参加者：大島

概要：公益財団法人阿蘇グリーンストックが開催する、野焼き支援ボランティア向けの初心者講習会に参加したもの。くじゅう地区でおこなわれている野焼きに活かせるよう、野焼きの際に留意することや安全対策等について学習した。

③森川海ネットワーク形成会合島原半島「島原半島における SDGs のタネ探し」及び「ビジターセンター意見交換会」

開催日時：令和３年２月 26 日　　参加者：種村、大島

概要：EPO 九州主催のビジターセンター意見交換会に参加したもの。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン ZOOM での意見交換会。展示設計や自然資源のワイズユースについて意見交換を行った。

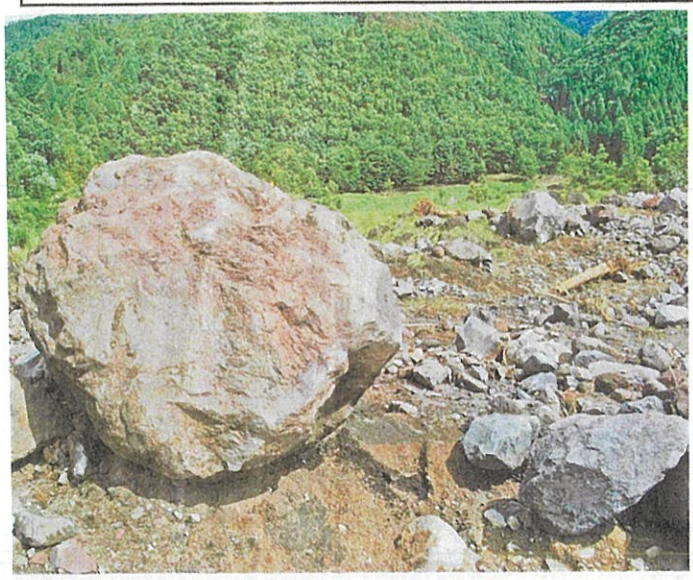
豪雨の影響受けた くじゅう連山

登山道 土砂で寸断

【竹田】記録的豪雨でくじゅう連山の主要登山道に土砂が流れ込み、利用できない状態となったことが15日、竹田市などへの取材で分かった。関係自治体は安全確保のため、登山の自粛を呼び掛けている。復旧の見通しは立っていない。

復旧の見通し立たず

県など「立ち入り控えて」



岩や土砂に覆われた岳麓寺登山道周辺＝9日午前、竹田市久住町有氏

市久住支所などによると、15日現在で少なくとも主要7カ所の登山ルートが通れなくなっている。牧ノ戸峠（九重町）や白水鉱泉（由布市）は登山口に到着するまでの県道が寸断されている。

詳しい状況を確認できない登山ルートもあり、「被害の全容は不明」と長者原ビジターセンター（九重町）。県はホームページで「登山道の通行は大変危険。当面、立ち入りは控えてほしい」と注意を喚起する。

くじゅう連山の中心に位置する法華院温泉山荘（竹田市）は土砂崩れの影響で、バンガロー10棟が流れ、テント場も大量の土で覆われた。弘蔵岳久代表(58)は「まだ山からは水が出ている。復旧にはかなりの時間が必要になりそうだ」。

竹田市内では、8日午前1時20分までの1時間に約110ミリ、11日には午前7時までの1時間に約90ミリの大雨を記録した。道路約50カ所、田畑は約360カ所に被害が出ており、登山道の復旧工事は後回しになる見通し。久住支所は「何よりもライフラインの復旧が優先。工事には億単位の予算が必要で、今後については全くの白紙」と説明する。

（原田宏一）

土砂に押し流された法華院温泉山荘のバンガロー＝8日午前、竹田市久住町有氏

大分合同新聞↑

令和2年7月16日（木）

くじゅう連山の登山道をきれいに

玖珠美山高

【九重】玖珠町の玖珠美山高の地域産業科3年生27人は9日、くじゅう連山の登山道を整備した。卒業記念の一環。

環境省や県警、九重の自然を守る会などから指導スタッフ22人も参加した。九重町田野の長者原ビジターセンターで開会式。生徒らは木材やスコップを持って山を登った。

指山登山道の約400メートル間を整備。木材や土のうで、崩落した場所を整備したり、邪魔な草などを刈った。

宿利理人さん(18)は「山を登るのはきつかった。自分たちが作った道で、安全に登山を楽しんでくれたらうれしい」と話した。

（姫野直也）

くじゅう連山の登山道を整備する生徒ら

←大分合同新聞

令和2年11月14日（土）

くじゅう連山の登山道を整備

管理運営協議会

登山道を整備する参加者

【九重】くじゅう地区管理運営協議会（会長・日野康志九重町長）は、7月の豪雨で被害を受けたくじゅう連山の登山道を整備している。寄付金や賛助会費を活用し、来年3月末まで続ける予定。

由布市や竹田市にまたがる黒岳周辺では9月30日、会員6人が作業に当たった。参加者は由布市庄内町阿蘇野の男池にある登山道から入山。道に迷わないためのロープ設置や倒木の撤去などに汗を流した。

指揮を執ったくじゅうネイチャーガイドクラブの奥薗一也事務局長(63)は「土砂崩れなどの影響でひどい状況。利用者のため、安全安心な作業を心掛けたい」と話した。

長者原ビジターセンターによると、長者原から諏蛾守越方面へ向かうルートなど少なくとも6カ所で、通行止めが続いている。

（姫野直也）

↑大分合同新聞

令和2年10月10日（土）

6. 地域の概要

阿蘇くじゅう国立公園は、九州のほぼ中央に位置し、周囲約 100km に及ぶ世界最大級の阿蘇のカルデラ地形と、その北東部に連なるくじゅう火山群、由布岳、鶴見岳からなる、火山地形と草原景観が特徴的な国立公園である。その中でも、くじゅう地域は「九州の屋根」とも呼ばれ、1,700 m 級の峰が連なり、初夏はミヤマキリシマの花、秋は紅葉で山々が彩られる。また、山間の坊ガツル湿原・タデ原湿原は、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されており、山麓の飯田高原・久住高原などの広大な高原と並び、湿地性・草原性の多様な草花や野鳥・昆虫など多くの動植物の貴重な生育場所となっている。

長者原ビジターセンターは、通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿いの大分県九重町長者原地区にあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの眼前にはタデ原湿原が広がり、設置された木道を歩くと、四季折々の自然を肌で感じることができる。

くじゅう連山（ミヤマキリシマ開花期）

タデ原湿原

[位置図]

阿蘇くじゅう国立公園

指定：1934 年（昭和 9 年）

公園面積：72,678ha（くじゅう地域 18,310 ha ）

7. 運営体制

事務局

九重町役場 商工観光・自然環境課内

職員（くじゅう地区管理運営協議会 事務局職員）

種村 英大（たねむら　えいだい）　事務局長

大島 和伸（おおしま　かずのぶ）

伊東 宗喜（いとう　むねき）

渡辺 彩花（わたなべ　あやか）

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、
九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、筌ノ口温泉観光協会、NPO 法人竹田市観光ツーリズム協会、
大分県立社会教育総合センター九重青少年の家、
株式会社おおいた観光サービス(オーベルジュ・コスモス)、飯田高原観光株式会社(長者原ヘルスセンター)、
やまなみ観光株式会社(レストハウスやまなみ)、有限会社みやま商店(みやま商店)、
寒の地獄株式会社(寒の地獄旅館)、有限会社星生温泉(九重星生ホテル)、有限会社くじゅう倶楽部、
株式会社まきのとコーポレーション(九重観光ホテル)、九重ヒュッテ、株式会社牧ノ戸(牧ノ戸売店)、
有限会社法華院温泉(法華院温泉山荘・法華院温泉別館花山酔)、株式会社エルランチョ・グランデ、
九重町飯田農業協同組合(飯田高原ドライブイン)、九重森林公園株式会社(九重森林公園スキー場)、
株式会社橋本建設(スパ・グリネス)、有限会社吉武建設(くじゅうやまなみキャンプ村)、
株式会社ア・マ・ファソン(オーベルジュ・ア・マ・ファソン)、株式会社星野リゾート(界 阿蘇)、
株式会社レゾネイト(レゾネイトクラブくじゅう)、九重の自然を守る会、飯田高原デザイン会議、
NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ、NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部、
一般財団法人セブン・イレブン記念財団(九重ふるさと自然学校)、一般財団法人九電みらい財団、
一般財団法人 TAO 文化振興財団
（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

九州電力株式会社（八丁原発電所）、九州林産株式会社林業部、福岡県高等学校体育連盟、
公益社団法人ツーリズムおおいた、一般財団法人久住やすらぎ観光公社（国民宿舎久住高原荘）、
株式会社花公園（くじゅう花公園）、九重町観光協会
（個人会員を除く、敬称略・順不同）

「じゅうファンクラブ」

くじゅう地区管理運営協議会(くじゅうファンクラブ)

【 事務局 】九重町役場商工観光・自然環境課

【 事務所 】長者原ビジターセンター

【 所在地 】〒879-4911

大分県玖珠郡九重町大字田野 255－33

【 電　話 】0973－79－2154

【ホームページ】http://kujufanclub.com/

【Facebook ページ】http://www.facebook.com/choujabaruvisitor/

長者原ビジターセンター

【住所・電話】上記に同じ

【開館時間】9:00～16:00（5～10 月は 9:00～17:00）

【 休館日 】年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）のみ

【 入館料 】無料

発　行 ／ 令和 3 年 3 月 31 日